

児童養護施設入所児童等調査結果の要点

(平成20年2月1日現在)

厚生労働省雇用均等・児童家庭局

平成21年7月

児童養護施設入所児童等調査結果の要点

I 調査の概要

この調査は、家庭状況等主として環境上の理由により、児童福祉法に基づいて、里親に委託されている児童、児童養護施設、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設及び乳児院に措置されている児童、母子生活支援施設を利用している母子世帯の児童並びに保護者の実態を明らかにして、要保護児童の福祉増進のための基礎資料を得ることを目的とした。

調査の対象及び客体は、全国の里親委託児童、児童養護施設（平成20年2月1日現在565施設）、情緒障害児短期治療施設（同28施設）、児童自立支援施設（同58施設）及び乳児院（同119施設）の入所児童並びに母子生活支援施設（同273施設）の児童及び保護者を対象として、その全員を調査客体とした。

調査の時期は、平成20年2月1日であり、これまで5年度ごとに実施してきた。

調査の方法は、「II 調査結果の要点」の1～5については、里親委託関係は委託家庭を訪問するなどにより児童相談所が、入所施設関係は施設長が記入し、6及び7については、児童養護施設及び児童自立支援施設の年長児童がそれぞれ直接記入することにより実施した。

II 調査結果の要点

1 児童の状況

(1) 現在委託中の児童数等

前回調査に比べ、平均年齢（調査時点）及び委託（入所）時の平均年齢については里親委託児童の年齢が上昇した以外は大きな変化はない。児童の平均委託（在所）期間についても、大きな変化はない。

なお、里親委託児及び入所児童の総数は前回38,318人より3,284人増加し、41,602人（母子施設児を除く。）となっている。（P2表1、P3表2、P4表3）

	児童総数		平均年齢	委託（入所）時の平均年齢	平均委託・在所期間	
	男	女				
里親委託児	3,611人 (2,454)	1,817人 (1,252)	1,790人 (1,200)	9.3歳 (8.5)	5.5歳 (4.4)	3.9年 (4.2)
養護施設児	31,593人 (30,416)	16,908人 (16,397)	14,555人 (13,897)	10.6歳 (10.2)	5.9歳 (5.9)	4.6年 (4.4)
情緒障害児	1,104人 (768)	641人 (443)	462人 (321)	12.4歳 (12.5)	10.6歳 (10.8)	1.9年 (1.7)
自立施設児	1,995人 (1,657)	1,355人 (1,136)	622人 (515)	14.2歳 (14.2)	13.1歳 (13.1)	1.1年 (1.0)
乳児院児	3,299人 (3,023)	1,826人 (1,670)	1,467人 (1,337)	1.2歳 (1.0)	0.3歳 (0.2)	1.1年 (0.9)
母子施設児	6,552人 (7,089)	3,257人 (3,565)	3,272人 (3,484)	7.3歳 (7.8)	5.2歳 (5.1)	* (*)

注) () は前回調査。*は調査項目としてない。児童総数には性別不詳を含む。

(2) 委託(入所)経路

里親委託児については、「家庭から」が44.3% (前回34.7%)、「乳児院から」が27.0% (前回32.6%)、「児童養護施設から」が19.7% (前回23.7%)が多い。一方、養護施設児、情緒障害児、自立施設児及び乳児院児では、「家庭から」が、それぞれ71.5% (前回74.1%)、79.8% (前回84.8%)、63.5% (前回65.3%)及び86.2% (前回75.4%)とそのほとんどを占めている。

また、児童自立支援施設では、家庭裁判所からの決定によるものが17.4% (前回17.0%)である。(P5表4)

(3) 就学状況

措置児童の就学状況をみると、里親委託児及び母子施設児では「就学前」が最も多く、それぞれ34.0% (前回41.8%)、42.1% (前回41.2%)となっている。養護施設児、情緒障害児及び自立施設児では「中学校」がそれぞれ22.7% (前回21.4%)、40.6% (前回45.8%)、74.0% (76.4%)となっている。(P5表5)

(単位：%)

	総数	就学前	小学1～3年	小学4～6年	中学校	中学卒	
						高校	その他
里親委託児	100.0	34.0% (41.8)	17.6% (14.3)	15.6% (14.7)	15.8% (14.3)	14.2% (12.9)	2.6% (2.2)
養護施設児	100.0	20.2% (23.2)	18.5% (20.4)	22.4% (20.8)	22.7% (21.4)	14.2% (12.9)	1.3% (1.2)
情緒障害児	100.0	0.3% (1.2)	13.1% (13.7)	32.7% (28.8)	40.6% (45.8)	11.6% (9.2)	1.7% (1.3)
自立施設児	100.0	— —	0.9% (0.8)	9.3% (9.5)	74.0% (76.4)	5.1% (3.0)	10.7% (10.3)
母子施設児	100.0	42.1% (41.2)	19.9% (22.2)	17.6% (18.0)	12.2% (11.9)	4.8% (4.9)	0.8% (1.3)

注) () は前回調査

(4) 心身の状況

児童の心身の状況については、里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児及び母子施設児において「障害等あり」の割合が、それぞれ18.0% (前回12.6%)、23.4% (前回20.2%)、70.7% (前回59.5%)、35.4% (前回27.3%)、32.3% (前回30.4%)、16.3% (前回12.5%)となっており、いずれも増加している。(P6表6)

(単位：%)

	総数	障害等あり	障害等あり内訳 (重複回答)									
			身体虚弱	肢体不自由	視聴覚障害	言語障害	知的障害	てんかん	ADHD	LD	広汎性発達障害	その他の障害等
里親委託児	100.0%	18.0% (12.6)	2.6% (1.7)	0.7% (0.6)	0.9% (0.8)	0.7% (1.3)	6.6% (4.7)	0.7% (0.6)	1.5% (1.0)	0.5% (*)	2.0% (*)	4.2% (3.9)
養護施設児	100.0%	23.4% (20.2)	2.4% (2.5)	0.4% (0.4)	0.8% (0.8)	1.3% (1.4)	9.4% (8.1)	1.2% (1.4)	2.5% (1.7)	1.1% (*)	2.6% (*)	7.3% (8.3)
情緒障害児	100.0%	70.7% (59.5)	0.6% (3.0)	0.5% (0.8)	0.3% (0.1)	0.4% (1.0)	10.7% (8.3)	2.1% (1.7)	11.9% (9.1)	3.2% (*)	16.8% (*)	44.9% (49.6)
自立施設児	100.0%	35.4% (27.3)	1.0% (1.3)	0.3% (0.1)	0.6% (0.4)	0.6% (0.4)	9.3% (8.6)	1.6% (1.6)	9.0% (7.5)	3.2% (*)	7.3% (*)	13.2% (13.0)
乳児院児	100.0%	32.3% (30.4)	20.4% (20.9)	3.2% (3.0)	2.8% (2.4)	3.1% (2.9)	5.5% (4.9)	1.8% (1.8)	0.2% (0.2)	0% (*)	0.9% (*)	8.6% (8.2)
母子施設児	100.0%	16.3% (12.5)	3.4% (3.4)	0.4% (0.4)	0.4% (0.5)	1.0% (0.9)	3.8% (2.9)	0.8% (0.9)	1.3% (0.8)	1.0% (*)	1.9% (*)	6.1% (5.3)

注) () は前回調査。*は調査項目としていない。

(5) 特に指導上留意している点

指導上留意している点については、全員が「留意している点あり」と答えている。

「心の安定」を留意点としてあげているのは共通している傾向であるが、里親委託児では次いで「里親との関係」が35.5%（前回38.8%）、養護施設児では「家族との関係」53.7%（前回50.1%）、情緒障害児では「家族との関係」67.2%（前回66.0%）、次いで「友人との関係」61.7%（前回59.1%）、自立施設児では「社会規範」56.6%（前回53.1%）、「家族との関係」55.0%（前回55.6%）、母子施設児では「家族との関係」41.1%などが多くなっている。

逆に里親委託児の「家族との関係」は低い割合19.8%（前回14.5%）となっている。（P7表8）

	総数	留意している点あり	留意点（重複回答）							
			心の安定	友人との関係	家族との関係	学習の興味・関心	しつけ	心理的対応	社会規範	職員（里親）との関係
里親委託児	100.0%	100.0% (89.0)	48.0% (47.3)	17.8% (17.3)	19.8% (14.5)	20.5% (16.9)	28.4% (32.8)	6.6% (4.4)	9.3% (8.1)	35.5% (38.8)
養護施設児	100.0%	100.0% (98.8)	66.9% (64.8)	38.5% (34.6)	53.7% (50.1)	34.9% (35.9)	38.3% (45.4)	18.2% (15.7)	20.6% (18.3)	31.9% (26.9)
情緒障害児	100.0%	100.0% (99.9)	59.5% (61.3)	61.7% (59.1)	67.2% (66.0)	31.1% (26.6)	23.0% (28.5)	45.7% (64.2)	24.9% (20.4)	36.9% (36.3)
自立施設児	100.0%	100.0% (99.8)	61.8% (61.1)	47.3% (46.3)	55.0% (55.6)	33.3% (32.3)	28.1% (37.5)	14.5% (10.6)	56.6% (53.1)	31.4% (29.1)
母子施設児	100.0%	100.0% (83.8)	55.7% (45.0)	35.8% (31.1)	41.1% (33.1)	24.8% (24.3)	34.0% (37.7)	12.1% (7.3)	11.4% (9.2)	14.9% (11.4)

注) () は前回調査。

(6) 学業の状況

学業の状況については、里親委託児、養護施設児及び母子施設児では「特に問題なし」が最も高く、その割合はそれぞれ43.9%（前回37.6%）、47.8%（前回46.2%）、45.4%（前回41.3%）となっているが、情緒障害児及び自立施設児では「遅れがある」が最も高く、その割合はそれぞれ53.4%（前回57.0%）、64.0%（前回66.9%）となっている。（P8表9）

2 委託（入所）時の家庭の状況

(1) 養護問題発生理由

養護問題が発生した主たる理由を一つだけ尋ねた。上位の理由としては、里親委託児では「養育拒否」16.0%（前回19.9%）、「父又は母の行方不明」14.3%（前回14.7%）が多く、養護施設児では「父又は母の虐待・酷使」14.4%（前回11.1%）、「父又は母の放任・怠だ」13.8%（前回11.7%）となっている。

また、情緒障害児の場合には「父又は母の虐待・酷使」26.5%（前回22.9%）、「父又は母の放任・怠だ」16.4%（前回14.1%）であり、自立施設児では「父又は母の放任・怠だ」22.3%（前回20.7%）、「父又は母の虐待・酷使」17.0%（前回11.3%）となっている。乳児院の場合には「父又は母の精神疾患等」19.1%（前回14.9%）、「父又は母の虐待・酷使」9.2%（前回4.6%）となっている。

なお、一般的に「虐待」とされる「放任・怠だ」「虐待・酷使」「棄児」「養育拒否」を合計すると、里親委託児は全体の**36.7%**（前回40.4%）、養護施設児33.1%（前回27.4%）、情緒障害児47.9%

(前回 42.1%)、自立施設児 45.8% (前回 37.5%)、乳児院児 27.2% (前回 20.5%) となっており、前回調査に比し、里親委託児を除くすべての施設において虐待を理由とした委託及び入所の割合が高くなっている。(P9 表 11)

(2) 被虐待経験の有無及び虐待の種類

今回の調査から、新たに被虐待経験の有無及び虐待の種類について項目を加えた。

「虐待があり」の割合を見てみると、里親委託児で 31.5%、養護施設児で 53.4%、情緒障害児で 71.6%、自立施設児で 65.9%、乳児院児で 32.3%となっている。

また、里親委託児、養護施設児及び乳児院児でネグレクトが最も多く、その割合は 67.1%、66.2%、71.4%である。情緒障害児及び自立施設児で身体的虐待が最も多く、その割合は 60.5%、59.5%である。(P10 表 12)

	総数	虐待経験あり	虐待経験の種類 (複数回答)				虐待経験なし	不明
			身体的虐待	性的虐待	ネグレクト	心理的虐待		
里親委託児	100.0%	31.5%	30.6%	4.9%	67.1%	15.3%	61.5%	6.6%
養護施設児	100.0%	53.4%	39.8%	3.9%	66.2%	20.4%	40.8%	5.5%
情緒障害児	100.0%	71.6%	60.5%	8.5%	47.1%	32.2%	26.7%	1.5%
自立施設児	100.0%	65.9%	59.5%	32.1%	45.4%	21.0%	26.5%	7.1%
乳児院児	100.0%	32.3%	31.4%	0.8%	71.4%	9.2%	63.4%	3.8%

注) 総数には不詳を含む

3 委託(入所)時の保護者の状況

委託(入所)時に「両親又は一人親あり」の割合をみると、里親委託児で 67.7% (前回 67.8%)、養護施設児で 83.2% (前回 91.5%)、情緒障害児で 87.3% (前回 85.3%)、自立施設児で 87.7% (前回 89.1%)、乳児院児で 89.0% (前回 84.6%) となっており、里親委託児で最も低くなっている。

「両親又は一人親あり」の児童についてみると、最も割合の多い保護者は、里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児が「実母のみ」でそれぞれ 59.0% (前回 56.9%)、42.5% (前回 38.1%)、46.5% (前回 36.6%)、45.1% (前回 40.3%) であり、乳児院児が「実父母有」で 52.4% (前回 46.9%) となっている。(P10、表 13-1 P11 表 13-2)

	総数	両親又は一人親	両親ともいない	両親とも不明	不詳
里親委託児	100.0%	67.7% (67.8)	21.3% (11.8)	6.7% (8.1)	4.3% (12.3)
養護施設児	100.0%	83.2% (91.5)	8.6% (5.0)	2.2% (3.1)	5.9% (0.4)
情緒障害児	100.0%	87.3% (85.3)	8.5% (4.0)	0.6% (1.4)	3.5% (9.2)
自立施設児	100.0%	87.7% (89.1)	6.3% (5.1)	1.2% (2.8)	4.8% (2.9)
乳児院児	100.0%	89.0% (84.6)	2.1% (1.6)	2.0% (2.8)	7.0% (11.1)

注) () は前回調査。

	総数	実父母有	実父のみ	実母のみ	実父養母	養父実母	養父養母	養父のみ	養母のみ	不詳
里親委託児	100.0%	21.1% (23.0)	14.0% (12.3)	59.0% (56.9)	1.5% (1.6)	3.6% (5.2)	0.2% (0.1)	0.4% (0.5)	0.2% (0.2)	0.1% (0.2)
養護施設児	100.0%	27.8% (29.4)	18.5% (22.7)	42.5% (38.1)	2.5% (2.6)	7.7% (6.2)	0.2% (0.2)	0.4% (0.5)	0.3% (0.2)	0.1% (0.0)
情緒障害児	100.0%	26.0% (35.3)	8.3% (8.9)	46.5% (36.6)	5.6% (6.3)	12.2% (12.2)	0.3% (0.3)	0.4% (0.5)	0.6% -	- -
自立施設児	100.0%	24.7% (24.8)	12.5% (16.9)	45.1% (40.3)	4.0% (5.2)	12.6% (11.7)	0.3% (0.5)	0.5% (0.2)	0.2% (0.1)	0.1% (0.2)
乳児院児	100.0%	52.4% (46.9)	2.9% (4.9)	42.6% (46.4)	0.2% (0.1)	1.5% (1.5)	0.1% (0.0)	0.0% -	0.1% (0.1)	0.2% (0.1)

注) () は前回調査。

4 児童を委託されている里親家庭の状況

(1) 里親申込みの動機

現に委託されている里親家庭の総数は 2,626 世帯となっており、前回調査の 1,958 世帯より 668 世帯増加している。(P14 表 16)

総数	児童福祉への理解から	子どもを育てたいから	養子を得たいため	その他	不詳
100.0%	37.1% (32.3)	31.4% (33.6)	21.8% (29.8)	8.5% (2.0)	1.2% (2.3)

注) () は前回調査。

(2) 委託児童別里親家庭数

委託児童数は、「1人」が 51.8% (前回 55.5%) と最も高い。(P14 表 18)

総数	1人	2人	3人	4人	5人以上	不詳
100.0%	51.8% (55.5)	25.0% (24.3)	11.1% (8.8)	5.7% (5.0)	5.0% (5.2)	1.4% (1.4)

注) () は前回調査。

(3) 里親の年齢

里親の年齢は「50歳代」が里父 39.0%(前回 42.2%)、里母 38.0% (前回 37.4%) が最も多く、前回調査と比べると「40歳代」〔里父 (前回 31.5%) ・里母 (前回 39.8%)〕が減少している。(P15 表 19)

	総数	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	いない	不詳
里父	100.0%	0.5% (0.2)	5.6% (5.5)	22.8% (31.5)	39.0% (42.2)	23.6% (16.1)	8.3% (4.4)	0.1% (0.1)
里母	100.0%	1.0% (0.3)	7.4% (10.0)	31.5% (39.8)	38.0% (37.4)	20.5% (11.5)	- (0.7)	1.5% (0.2)

注) () は前回調査。

5 母子生活支援施設入所世帯の状況

(1) 母子生活支援施設入所世帯数

母子生活支援施設に入所している世帯数は 4,056 世帯 (前回 4,343 世帯) で、児童「1人」

の世帯は 55.4%（前回 54.2%）、「児童 2 人」は 31.2 %（前回 31.7%）、児童「3 人以上」は 10.4%（前回 13.9%）となっている。（P16 表 23）

（2）入所理由

母子生活支援施設への入所理由は、「配偶者からの暴力」が 40.8%（前回 28.4%）で最も多く「経済的理由による」の 24.6%（前回 26.8%）、「住宅事情による」15.3%（前回 16.0%）となっている。（P16 表 24）

6 児童養護施設入所中の年長児童（中学 3 年生以上）の状況

（1）就学状況

今回の調査で回答を得た年長児童数は、7,265 人（前回 6,467 人）であった。その内男子は 3,757 人（51.7%）、女子は 3,480 人（47.9%）である。

就学状況の割合は、次のとおりである。（P20 表 36）

	総数	中3	中学卒	高1	高2	高3	高4	通信制	高校卒	専修学	公職訓	その他	不詳
児童養護施設 の年長児	7,265人 (6,467)	33.1% (33.5)	0.4% (0.9)	23.8% (22.8)	20.7% (20.2)	18.3% (17.8)	0.4% (0.6)	0.3% (0.6)	0.2% (0.1)	0.7% (0.7)	0.4% (0.5)	1.3% (2.2)	0.4% (0.2)

注) () は前回調査。

（2）児童の生活行動経験

思いやりの行動や社会的自立に関わる行動として、最も多く経験しているのは、「自分の気に入った洋服や持ち物を選んで買ったこと」の 93.0% で、逆に最も少ないのは「自分や友人たちと計画して旅行したこと」の 21.5% となっている。男女間で差の大きい項目は「赤ちゃんをあやしたり、おむつの世話をしたこと」で女子が約 23.9 ポイント大きくなっている。

「いじめ」に関しては、「大勢で 1 人をいじめてしまったこと」が全体で 25.0%、「いじめを受けていたこと」が 38.6% であり、いじめた側は男子の比率が高く、いじめられる側は女子の比率が高い。

また、「虐待」に関しては、「虐待を受けたこと」が全体の 27.4% であり、女子が 10.5 ポイント男子より大きい結果となっている。（P20 表 37）

（3）大切なこと

大切なことと思うことについて、最も選択率が高かったのは、「健康であること」の 53.2%（前回 51.2%）、次いで「友達がたくさんいること」の 52.6%（前回 54.1%）で、「将来に夢を持っていること」の 41.8%（前回 49.1%）となっている。

逆に、最も選択率が低かったのは、「人がいやがる事をすすんでやること」の 6.8%（前回 8.2%）、次いで「勉強ができること」11.6%（前回 10.1%）、「7. 勇気をもっていること」の 18.8%（28.5%）となっている。

男女間で差の大きい項目は、「運動や歌などで、何か得意なもの（特技）があること」で男子が女子より 9.6 ポイント高いのに対し、「家族で仲良く生活すること」では女子が 8.2 ポイント、「勇気を持っていること」でも女子が 4.9 ポイントの男子より高区なっている。（P21 表 38）

（4）進学希望

養護施設児のうち、中学 3 年生の高等学校又は各種学校への進学を希望する児童の割合は、84.5%（前回 88.0%）であり、まだ考えていない児童は 8.3%（前回 4.4%）、進学を希望し

ていない児童は5.8%（前回6.6%）となっている。男子に比べ女子が約1.9ポイント高い結果となっている。（P22表39）

《高等学校（各種学校）進学希望》

	総数	希望する	考えていない	希望しない
中学3年生	2,404人	84.5% (88.0)	8.3% (4.4)	5.8% (6.6)
男	1,247人	83.6%	8.8%	6.2%
女	1,151人	85.5%	7.7%	5.5%

注) () は前回調査。

また、養護施設児の中学3年生以上の年長児童全員の、大学又は短期大学への進学希望の割合は25.7%（前回21.4%）、考えていない28.1%（前回26.0%）、希望しない40.7%（前回46.5%）となっており、前回調査より進学希望が増加している。

性別では、高等学校（各種学校）の進学希望同様、女子の方が男子に比べ進学の希望が高い。（P22表40）

《大学（短大）進学希望》

	希望する	考えていない	希望しない
児童養護施設 の年長児	25.7% (21.4)	28.1% (26.0)	40.7% (46.5)
男	22.1%	29.5%	42.6%
女	29.5%	26.6%	38.9%

注) () は前回調査。

(5) 将来の希望—家庭復帰、結婚、自立—

早くもとの家庭へ復帰したい者は、全体で37.7%（前回38.4%）であるが、14歳では45.2%、15歳では45.8%が希望しており、その後は年齢が高くなるとともに減少している。

早く結婚して落ち着いた家庭を作りたいと答えた児童は、42.0%（前回37.9%）で、年齢が高くなるとともに増加している。

施設を出て、自活することに自信があると答えた児童は、31.3%（前回31.5%）となっており、特に性別による差が大きく、男子が36.7%（前回37.7%）に対して、女子が25.6%（25.0%）となっている。（P24表42）

	家庭復帰	結婚したい	生活していく自信
児童養護施設 の年長児	37.7% (38.4)	42.0% (37.9)	31.3% (31.5)
男	36.5%	41.3%	36.7%
女	39.2%	42.7%	25.6%
14歳	45.2%	34.7%	28.6%
15歳	45.8%	38.8%	32.4%
16歳	37.1%	40.4%	29.6%
17歳	32.9%	44.3%	31.5%
18歳以上	28.2%	48.7%	31.3%

注) () は前回調査。

7 児童自立支援施設の年長児童（中学3年生以上）の状況

(1) 就学状況

今回の調査で回答を得た年長児童数は、1,019人(前回813人)であった。その内男子は629人(61.7%)、女子は387人(38.0%)である。

就学状況の割合は、次のとおりである。(P25 表 44)

	総数	中3	中学卒	高1	高2	高3	高4	通信制	高校卒	専修学	公職訓	その他	不詳
児童自立支援施設の年長児	1,019人 (813)	72.5% (75.6)	14.3% (13.9)	5.0% (3.2)	3.0% (2.1)	2.0% (2.0)	- (0.1)	0.8% (0.1)	0.2% -	0.1% (0.5)	0.6% (0.5)	1.3% (2.0)	0.2% -

注) () は前回調査。

(2) 児童の生活行動経験

児童の生活行動経験について、最も多く経験しているのは、「自分の気に入った洋服や持ち物を選んで買ったこと」の92.0%、逆に最も少ないのは「一人で銀行や役所などで手続きをしたこと」の21.3%となっている。

男女間で差の大きい項目は「赤ちゃんをあやしたり、おむつの世話をしたこと」で女子が男子に比べ25.5ポイント大きくなっている。

「いじめ」に関しては、「大勢で1人をいじめてしまったこと」が全体で44.6%(前回49.6%)、「いじめを受けていたこと」が43.2%(前回40.1%)であり、いずれの項目についても、女子の率が高い結果になっている。

また、「虐待」に関しては、「虐待を受けたこと」が全体の31.2%(前回27.7%)であり、女子が16.6ポイント以上高い結果となっている。(P25 表 45)

(3) 大切なこと

大切なことと思うものについて、最も選択率が高かったものは、「家族で仲良く生活すること」の60.3%(前回60.3%)で、次いで「友達がたくさんいること」の50.9%(前回49.3%)、「5.健康であること」の45.1%(前回44.6%)となっている。

逆に、最も選択率が低かったのは、「勉強ができること」の7.3%(前回6.8%)、次いで「人のいやがる事をすすんでやること」の9.2%(前回9.5%)、「お金がたくさんあること」の20.3%(前回22.6%)となっている。

男女間で差の大きい項目は、「友達がたくさんいること」で男子が8.5ポイント大きいのに対し、「お金がたくさんあること」は逆に女子が10.7ポイント大きくなっている。(P26 表 46)

(4) 進学希望

自立施設児のうち、中学3年生の高等学校又は各種学校への進学を希望する者の割合は、77.4%(前回68.0%)、まだ考えていない者は7.2%(前回7.5%)、進学を希望していない者は14.9%(前回23.4%)となっており、前回調査に比べ進学希望が大幅に増加している。

養護施設児と同様に、男子よりも女子の方が進学希望の割合は高い。

《高等学校（各種学校）進学希望》

	総数	希望する	考えていない	希望しない	不詳
中学3年生	739人	77.4% (68.0)	7.2% (7.5)	14.9% (23.4)	0.5% (1.1)
男	468人	75.2%	7.5%	16.5%	0.9%
女	270人	81.1%	6.7%	12.2%	-

注) () は前回調査。

自立施設児の中学3年生以上の年長児童全員の、大学又は短期大学への進学希望者の割合は23.5%(前回12.4%)、考えていない33.1%(前回31.7%)、希望しない41.5%(前回52.6%)となっており、前回調査より進学希望が増加している。性別では、高等学校(各種学校)の進学希望と同様に女子の方が進学希望の割合は高い。(P27表47、表48)

《大学(短大)進学希望》

	希望する	考えていない	希望しない	不詳
児童自立支援施設の年長児	23.5% (12.4)	33.1% (31.7)	41.5% (52.6)	2.0% (3.2)
男	20.8%	33.4%	43.6%	2.2%
女	27.9%	32.3%	38.5%	1.3%

注) ()は前回調査。

(5) 将来の職業の希望等—家庭復帰、結婚、自立—

早くもとの家庭へ復帰したい者は74.7%(前回78.0%)、早く結婚して落ち着いた家庭を作りたいと答えた児童は54.1%(前回52.2%)、施設を出て、自分で生活することに自信があると答えた児童は51.9%(前回58.3%)となっている。(P28表50)

	家庭復帰	結婚したい	生活していく自信
児童自立支援施設の年長児	74.7% (78.0)	54.1% (52.2)	51.9% (58.3)

注) ()は前回調査。

児童養護施設入所児童等調査結果

(平成20年2月1日現在)

厚生労働省雇用均等・児童家庭局

平成21年7月

目次

調査の概要	1
結果の概要	2
I 児童の現在の状況	2
1 児童の現在の年齢 (里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、母子施設児)	
2 児童の委託(入所)時の年齢 (里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、母子施設児)	
3 児童の委託(在所)期間 (里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児)	
4 児童の委託(入所)経路 (里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児)	
5 児童の就学状況 (里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、母子施設児)	
6 児童の心身の状況 (里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、母子施設児)	
7 児童の罹患傾向 (里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、母子施設児)	
8 特に指導上留意している点 (里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、母子施設児)	
9 学業の状況 (里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、母子施設児)	
10 通学状況 (里親委託児、養護施設児、情緒障害児、母子施設児)	
II 委託(入所)時の家庭の状況(里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児)	9
1 養護問題発生理由	
2 児童の被虐待経験の有無、虐待の種類	
3 委託(入所)時の保護者の状況	
III 家族との関係(里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児)	12
1 家族との交流関係	
2 児童の今後の見通し	
IV 里親家庭の状況	14
1 里親申込みの動機	
2 登録期間	
3 委託児童数	
4 里親の年齢	
5 里親の仕事の種類	
6 里親家庭の年間所得	
7 里親家庭の住宅所有状況	
V 母子生活支援施設入所世帯(母親)の状況	16
1 児童数	
2 入所理由及び在所期間	
3 入所時の年齢	
4 母子世帯になった理由	
5 年金等の受給状況	
6 公営住宅入居希望の有無及び現在の状況	
7 従業上の地位及び仕事の種類	
8 転職希望の有無	
9 年間所得	
10 母子生活支援施設に入所している児童の虐待経験の状況	

VI 児童養護施設の年長児童の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

- 1 年長児童の就学状況
- 2 児童の生活行動経験
- 3 大切なこと
- 4 高等学校（各種学校）進学希望
- 5 大学（短大）進学希望
- 6 将来の希望（1）－職業－
- 7 将来の希望（2）－家庭復帰、結婚、自立－
- 8 友人関係

VII 児童自立支援施設の年長児童の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

- 1 年長児童の就学状況
- 2 児童の生活行動経験
- 3 大切なこと
- 4 高等学校（各種学校）進学希望
- 5 大学（短大）進学希望
- 6 将来の希望（1）－職業－
- 7 将来の希望（2）－家庭復帰、結婚、自立－
- 8 友人関係

1 調査の目的

この調査は、家庭状況等主として環境上の理由により、児童福祉法に基づいて、里親に委託されている児童、児童養護施設、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設及び乳児院に措置されている児童、母子生活支援施設を利用している母子世帯の児童並びにその保護者の実態を明らかにして、要保護児童の福祉増進のための基礎資料を得ることを目的とした。

2 調査の対象及び客体

全国の里親委託児童、児童養護施設の入所児童、情緒障害児短期治療施設の入所児童、児童自立支援施設の入所児童、乳児院の入所児童及び母子生活支援施設の児童並びに保護者を対象とし、その全員を調査客体とした。

客体：里親委託児童 3,611人

児童養護施設入所児童 31,593人（内、中学3年以上の年長児童 7,265人）

情緒障害児短期治療施設入所児童 1,104人

児童自立支援施設入所児童 1,995人（内、中学3年以上の年長児童 1,019人）

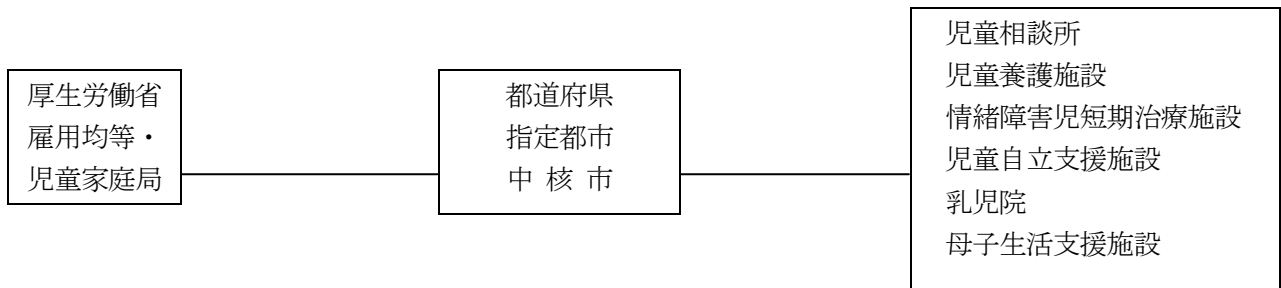
乳児院入所児童 3,299人

母子生活支援施設入所世帯 4,056世帯 及び 当該児童 6,552人

3 調査の時期

平成20年2月1日

4 調査の方法



5 結果の集計

結果の集計は、雇用均等・児童家庭局において行った。

6 観察上の注意

この調査は、すべて全数調査であり、以下の統計数字は実数値である。

以下では、里親に委託されている児童を「里親委託児」、児童養護施設、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設及び乳児院に措置されている児童をそれぞれ「養護施設児」「情緒障害児」「自立施設児」「乳児院児」、母子生活支援施設に措置されている母子世帯の児童を「母子施設児」という。

なお、構成割合は四捨五入のため、内容の合計が総数に合わない場合もある。

※ 結果については、前回調査の数字を比較の参考として掲載している。

（前回調査日 平成15年2月1日）

結果の概要

I 児童の現在の状況

1 児童の現在の年齢（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、母子施設児）

調査日（平成20年2月1日）現在の年齢別児童数は表1のとおりであるが、児童数は里親委託児が3,611人（前回2,454人）、養護施設児が31,593人（前回30,416人）、情緒障害児が1,104人（前回768人）、自立施設児が1,995人（前回1,657人）、乳児院児が3,299人（前回3,023人）、母子施設児が6,552人（前回7,089人）であった。

また、児童の平均年齢は、里親委託児9.3歳（前回8.5歳）、養護施設児10.6歳（前回10.2歳）、情緒障害児12.4歳（前回12.5歳）、自立施設児14.2歳（前回14.2歳）、乳児院児1.2歳（前回1.0歳）母子施設児7.3歳（前回7.9歳）と前回調査に比べ、里親委託児の年齢が上昇した以外は大きな変化はない。

表1 現在の年齢別児童数

	児童数						構成割合(%)					
	里親委託児	養護施設児	情緒障害児	自立施設児	乳児院児	母子施設児	里親委託児	養護施設児	情緒障害児	自立施設児	乳児院児	母子施設児
総数	3,611	31,593	1,104	1,995	3,299	6,552	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
男	1,817	16,908	641	1,355	1,826	3,257	50.3	53.5	58.1	67.9	55.4	49.7
女	1,790	14,555	462	622	1,467	3,272	49.6	46.1	41.8	31.2	44.5	49.9
0歳	59	6	-	-	790	167	1.6	0.0	-	-	23.9	2.5
1歳	119	34	-	-	1,222	352	3.3	0.1	-	-	37.0	5.4
2歳	160	454	-	-	931	456	4.4	1.4	-	-	28.2	7.0
3歳	228	1,120	-	-	276	453	6.3	3.5	-	-	8.4	6.9
4歳	217	1,520	1	-	62	532	6.0	4.8	0.1	-	1.9	8.1
5歳	249	1,711	-	-	16	523	6.9	5.4	-	-	0.5	8.0
6歳	220	1,858	4	-	1	491	6.1	5.9	0.4	-	0.0	7.5
7歳	234	1,860	40	-	-	441	6.5	5.9	3.6	-	-	6.7
8歳	217	1,973	54	4	-	439	6.0	6.2	4.9	0.2	-	6.7
9歳	196	2,095	70	18	-	439	5.4	6.6	6.3	0.9	-	6.7
10歳	181	2,300	101	36	-	413	5.0	7.3	9.1	1.8	-	6.3
11歳	196	2,389	140	53	-	364	5.4	7.6	12.7	2.7	-	5.6
12歳	179	2,486	130	116	-	359	5.0	7.9	11.8	5.8	-	5.5
13歳	183	2,466	142	266	-	291	5.1	7.8	12.9	13.3	-	4.4
14歳	195	2,349	153	563	-	253	5.4	7.4	13.9	28.2	-	3.9
15歳	216	2,356	129	655	-	222	6.0	7.5	11.7	32.8	-	3.4
16歳	190	1,745	57	171	-	144	5.3	5.5	5.2	8.6	-	2.2
17歳	192	1,581	45	78	-	131	5.3	5.0	4.1	3.9	-	2.0
18歳以上	178	1,256	36	33	-	69	4.9	4.0	3.3	1.7	-	1.1
平均年齢	9.3歳	10.6歳	12.4歳	14.2歳	1.2歳	7.3歳	・	・	・	・	・	・

注) 総数には、性別不詳、年齢不詳を含む。

2 児童の委託（入所）時の年齢（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、母子施設児）

児童の委託時または入所時の年齢は、里親委託児では1歳、養護施設児では2歳、情緒障害児では10歳、自立施設児では13歳、乳児院児及び母子施設児では0歳が最も多くなっている。

また、6歳未満で委託または入所した児童は、乳児院児の全部をはじめ、里親委託児で59.4%（前回72.0%）、養護施設児で53.8%（前回54.9%）、母子施設児で57.8%（前回57.9%）となっている。12歳以上で入所した児童は、養護施設児で12.0%（前回12.0%）、情緒障害児で39.9%（前回45.6%）、自立施設児で87.1%（前回87.4%）となっている。

表2 委託時又は入所時の年齢別児童数

	児童数						構成割合 (%)					
	里親委託児	養護施設児	情緒障害児	自立施設児	乳児院児	母子施設児	里親委託児	養護施設児	情緒障害児	自立施設児	乳児院児	母子施設児
総数	3,611	31,593	1,104	1,995	3,299	6,552	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
0歳	358	59	-	-	2,543	756	9.9	0.2	-	-	77.1	11.5
1歳	437	968	-	-	597	682	12.1	3.1	-	-	18.1	10.4
2歳	427	6,763	-	-	134	646	11.8	21.4	-	-	4.1	9.9
3歳	422	3,949	1	-	16	595	11.7	12.5	0.1	-	0.5	9.1
4歳	266	2,819	2	-	6	603	7.4	8.9	0.2	-	0.2	9.2
5歳	236	2,442	5	-	-	506	6.5	7.7	0.5	-	-	7.7
6歳	193	2,432	55	3	-	490	5.3	7.7	5.0	0.2	-	7.5
7歳	201	1,977	95	5	-	385	5.6	6.3	8.6	0.3	-	5.9
8歳	152	1,881	107	15	-	334	4.2	6.0	9.7	0.8	-	5.1
9歳	114	1,657	131	44	-	326	3.2	5.2	11.9	2.2	-	5.0
10歳	123	1,511	148	53	-	309	3.4	4.8	13.4	2.7	-	4.7
11歳	101	1,259	120	135	-	245	2.8	4.0	10.9	6.8	-	3.7
12歳	117	1,154	146	239	-	179	3.2	3.7	13.2	12.0	-	2.7
13歳	116	1,053	141	608	-	153	3.2	3.3	12.8	30.5	-	2.3
14歳	107	864	107	606	-	104	3.0	2.7	9.7	30.4	-	1.6
15歳	86	505	35	218	-	72	2.4	1.6	3.2	10.9	-	1.1
16歳	94	163	8	49	-	34	2.6	0.5	0.7	2.5	-	0.5
17歳	28	43	3	16	-	16	0.8	0.1	0.3	0.8	-	0.2
18歳以上	19	9	-	2	-	4	0.5	0.0	-	0.1	-	0.1
平均年齢	5.5歳	5.9歳	10.6歳	13.1歳	0.3歳	5.2歳	・	・	・	・	・	・

注) 総数には、年齢不詳を含む。

3 児童の委託（在所）期間（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児）

児童の委託期間または在所期間は、里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児のいずれの場合も「1年未満」が最も多く、期間が長くなるに従い児童数が漸減している。

また平均委託（在所）期間は、里親委託児 3.9年（前回 4.2年）、養護施設児 4.6年（前回 4.4年）、情緒障害児 1.9年（前回 1.7年）、自立施設児 1.1年（前回 1.0年）、乳児院児 1.1年（前回 0.9年）となっている。

表3 委託期間又は在所期間別児童数

	児 童 数					構 成 割 合 (%)				
	里 親 委 託 児	養 護 施 設 児	情 緒 障 害 児	自 立 施 設 児	乳 児 院 児	里 親 委 託 児	養 護 施 設 児	情 緒 障 害 児	自 立 施 設 児	乳 児 院 児
総 数	3,611	31,593	1,104	1,995	3,299	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1年未満	862	5,410	372	1,079	1,705	23.9	17.1	33.7	54.1	51.7
1年以上-2年未満	584	4,416	359	652	1,056	16.2	14.0	32.5	32.7	32.0
2年以上-3年未満	510	3,621	160	165	418	14.1	11.5	14.5	8.3	12.7
3年以上-4年未満	352	3,182	102	67	94	9.7	10.1	9.2	3.4	2.8
4年以上-5年未満	318	2,582	56	21	18	8.8	8.2	5.1	1.1	0.5
5年以上-6年未満	219	2,255	29	5	6	6.1	7.1	2.6	0.3	0.2
6年以上-7年未満	143	2,160	9	-	-	4.0	6.8	0.8	-	-
7年以上-8年未満	114	1,783	8	1	1	3.2	5.6	0.7	0.1	0.0
8年以上-9年未満	89	1,475	5	-	-	2.5	4.7	0.5	-	-
9年以上-10年未満	75	1,163	3	-	-	2.1	3.7	0.3	-	-
10年以上-11年未満	68	959	-	-	-	1.9	3.0	-	-	-
11年以上-12年未満	58	843	-	-	-	1.6	2.7	-	-	-
12年以上	216	1,653	1	1	-	6.0	5.2	0.1	0.1	-
平均 期 間	3.9年	4.6年	1.9年	1.1年	1.1年	・	・	・	・	・

注) 総数には、期間不詳を含む。

4 児童の委託（入所）経路（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児）

児童の委託経路または入所経路をみると、里親委託児では「家庭から」44.3%（前回34.7%）、「乳児院から」27.0%（前回32.6%）、「児童養護施設から」19.7%（前回23.7%）が多く、養護施設児、情緒障害児、自立施設児及び乳児院児では「家庭から」が、それぞれ71.5%（前回74.1%）、79.8%（前回84.8%）、63.5%（前回65.3%）、86.2%（前回75.4%）とそのほとんどを占めている。また、自立施設児では家庭裁判所からの決定によるものが、17.4%（前回17.0%）である。

表4 委託経路又は入所経路別児童数

	総数	家庭から	乳児院から	児童養護施設から	他の児童福祉施設から	里親家庭から	家庭裁判所から	その他から	不詳
里親委託児	3,611 100.0%	1,600 44.3%	975 27.0%	710 19.7%	63 1.7%	122 3.4%	*	111 3.1%	30 0.8%
養護施設児	31,593 100.0%	22,579 71.5%	6,170 19.5%	904 2.9%	763 2.4%	448 1.4%	41 0.1%	394 1.2%	294 0.9%
情緒障害児	1,104 100.0%	881 79.8%	1 0.1%	174 15.8%	14 1.3%	30 2.7%	-	-	4 0.4%
自立施設児	1,995 100.0%	1,267 63.5%	*	267 13.4%	58 2.9%	23 1.2%	347 17.4%	-	33 1.7%
乳児院児	3,299 100.0%	2,844 86.2%	60 1.8%	*	*	15 0.5%	*	375 11.4%	5 0.2%

注) *は調査項目としていない。

「家庭裁判所から」は、入所前に生活していた場所に関係なく、保護処分により入所したことをいう。

5 児童の就学状況（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、母子施設児）

児童の就学状況をみると、里親委託児及び母子施設児では「就学前」が最も多く、それぞれ34.0%（前回41.8%）、42.1%（前回41.2%）となっており、養護施設児、情緒障害児及び自立施設児では「中学校」が多く、それぞれ22.7%（前回21.4%）、40.6%（前回45.8%）、74.0%（前回76.4%）となっている。

なお、「中学校卒」は、里親委託児16.7%（前回15.0%）、養護施設児15.4%（前回14.1%）、情緒障害児13.3%（前回10.5%）、自立施設児15.8%（前回13.3%）となっており、割合は増加している。

表5 就学状況別児童数

	総数	就学前	小学校低学年(1~3)	小学校高学年(4~6)	中学校	中学卒			不詳
						公立高校	私立高校	その他	
里親委託児	3,611 100.0%	1,228 34.0%	637 17.6%	562 15.6%	569 15.8%	370 10.2%	141 3.9%	93 2.6%	11 0.3%
養護施設児	31,593 100.0%	6,388 20.2%	5,831 18.5%	7,083 22.4%	7,161 22.7%	3,519 11.1%	961 3.0%	399 1.3%	251 0.8%
情緒障害児	1,104 100.0%	3 0.3%	145 13.1%	361 32.7%	448 40.6%	107 9.7%	21 1.9%	19 1.7%	-
自立施設児	1,995 100.0%	-	18 0.9%	185 9.3%	1,476 74.0%	85 4.3%	17 0.9%	213 10.7%	1 0.1%
母子施設児	6,552 100.0%	2,759 42.1%	1,304 19.9%	1,155 17.6%	798 12.2%	235 3.6%	81 1.2%	51 0.8%	169 2.6%

6 児童の心身の状況（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、母子施設児）

児童の心身の状況については、里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児及び母子施設児において「障害等あり」の割合が、それぞれ18.0%（前回12.6%）、23.4%（前回20.2%）、70.7%（前回59.5%）、35.4%（前回27.3%）、32.3%（前回30.4%）、16.3%（前回12.5%）となっており、いずれも増えている。

表6 心身の状況別児童数

	総数	障害等あり	障害等あり内訳（重複回答）									
			身体虚弱	肢体不自由	視聴覚障害	言語障害	知的障害	てんかん	ADHD	LD	広汎性発達障害	その他の障害等
里親委託児	3,611 100.0%	649 18.0%	95 2.6%	25 0.7%	34 0.9%	27 0.7%	239 6.6%	26 0.7%	55 1.5%	18 0.5%	74 2.0%	150 4.2%
養護施設児	31,593 100.0%	7,384 23.4%	753 2.4%	131 0.4%	246 0.8%	411 1.3%	2,968 9.4%	391 1.2%	791 2.5%	343 1.1%	815 2.6%	2,314 7.3%
情緒障害児	1,104 100.0%	781 70.7%	7 0.6%	5 0.5%	3 0.3%	4 0.4%	118 10.7%	23 2.1%	131 11.9%	35 3.2%	186 16.8%	496 44.9%
自立施設児	1,995 100.0%	707 35.4%	19 1.0%	6 0.3%	11 0.6%	11 0.6%	186 9.3%	31 1.6%	179 9.0%	63 3.2%	146 7.3%	263 13.2%
乳児院児	3,299 100.0%	1,067 32.3%	674 20.4%	106 3.2%	94 2.8%	101 3.1%	183 5.5%	61 1.8%	7 0.2%	-	30 0.9%	284 8.6%
母子施設児	6,552 100.0%	1,067 16.3%	223 3.4%	27 0.4%	29 0.4%	64 1.0%	246 3.8%	54 0.8%	86 1.3%	67 1.0%	123 1.9%	397 6.1%

7 児童の罹患傾向（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、母子施設児）

児童の罹患傾向をみると、「罹患傾向あり」が里親委託児で14.0%（前回15.9%）、養護施設児で20.0%（前回20.1%）、情緒障害児で23.6%（前回25.5%）、自立施設児で20.8%（前回15.9%）、乳児院児で61.5%（前回66.8%）、母子施設児で32.4%（前回32.0%）となっており、特に、自立施設児で増加しており、乳児院児で減少している。

表7 罹患傾向別児童数

	総数	罹患傾向あり	罹患状況内訳（重複回答）					
			ひきつけたことがある	下痢をしやすい	よく熱をだす	風邪をひきやすい	湿疹が出やすい	その他
里親委託児	3,611 100.0%	505 14.0%	31 0.9%	15 0.4%	60 1.7%	147 4.1%	90 2.5%	214 5.9%
養護施設児	31,593 100.0%	6,319 20.0%	342 1.1%	531 1.7%	879 2.8%	2,016 6.4%	1,369 4.3%	2,420 7.7%
情緒障害児	1,104 100.0%	261 23.6%	7 0.6%	26 2.4%	16 1.4%	52 4.7%	52 4.7%	142 12.9%
自立施設児	1,995 100.0%	414 20.8%	8 0.4%	41 2.1%	36 1.8%	75 3.8%	105 5.3%	193 9.7%
乳児院児	3,299 100.0%	2,030 61.5%	190 5.8%	281 8.5%	717 21.7%	1,069 32.4%	583 17.7%	568 17.2%
母子施設児	6,552 100.0%	2,124 32.4%	168 2.6%	272 4.2%	559 8.5%	1,196 18.3%	235 3.6%	541 8.3%

8 特に指導上留意している点（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、母子施設児）

特に指導上留意している点については、全員が「留意している点あり」と答えている。

「心の安定」を留意点としてあげているのは共通している傾向であるが、里親委託児では次いで「里親との関係」35.5%、養護施設児では「家族との関係」53.7%、情緒障害児では一番が「家族との関係」67.2%、次いで「友人との関係」61.7%、自立施設児では「社会規範」56.6%及び「家族との関係」55.0%、母子施設児では「家族との関係」41.1%などが多くなっている。

表8-1 特に指導上留意している点別児童数

	総数	留意している点あり	留意点（重複回答）							
			心の安定	友人との関係	家族との関係	学習の興味・関心	しつけ	心理的対応	社会規範	職員（里親）との関係
里親委託児	3,611 100.0%	3,611 100.0%	1,733 48.0%	641 17.8%	716 19.8%	741 20.5%	1,024 28.4%	237 6.6%	336 9.3%	1,283 35.5%
養護施設児	31,593 100.0%	31,593 100.0%	21,146 66.9%	12,170 38.5%	16,956 53.7%	11,025 34.9%	12,101 38.3%	5,743 18.2%	6,517 20.6%	10,090 31.9%
情緒障害児	1,104 100.0%	1,104 100.0%	657 59.5%	681 61.7%	742 67.2%	343 31.1%	254 23.0%	504 45.7%	275 24.9%	407 36.9%
自立施設児	1,995 100.0%	1,995 100.0%	1,232 61.8%	943 47.3%	1,097 55.0%	665 33.3%	561 28.1%	290 14.5%	1,129 56.6%	626 31.4%
母子施設児	6,552 100.0%	6,552 100.0%	3,647 55.7%	2,344 35.8%	2,690 41.1%	1,624 24.8%	2,226 34.0%	796 12.1%	745 11.4%	975 14.9%

（表8-2につづく）

表8-2 特に指導上留意している点別児童数

	留意点（重複回答）									
	思いやり	将来設計	男女交際	自主性積極性	自己表現力	文化・生活習慣	経済観念	医療的対応	就職及び職業の安定	行動上の問題
里親委託児	545 15.1%	417 11.5%	91 2.5%	334 9.2%	362 10.0%	295 8.2%	138 3.8%	181 5.0%	123 3.4%	169 4.7%
養護施設児	10,761 34.1%	4,854 15.4%	2,376 7.5%	6,609 20.9%	12,000 38.0%	6,440 20.4%	2,869 9.1%	2,107 6.7%	1,158 3.7%	2,789 8.8%
情緒障害児	181 16.4%	162 14.7%	103 9.3%	244 22.1%	552 50.0%	290 26.3%	74 6.7%	207 18.8%	28 2.5%	206 18.7%
自立施設児	547 27.4%	399 20.0%	228 11.4%	441 22.1%	733 36.7%	354 17.7%	100 5.0%	213 10.7%	107 5.4%	387 19.4%
母子施設児	1,939 29.6%	375 5.7%	115 1.8%	853 13.0%	1,492 22.8%	992 15.1%	156 2.4%	242 3.7%	49 0.7%	452 6.9%

9 学業の状況（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、母子施設児）

学業の状況については、里親委託児、養護施設児及び母子施設児では「特に問題なし」が最も高く、その割合はそれぞれ43.9%（前回37.6%）、47.8%（前回46.2%）、45.4%（前回41.3%）となっているが、情緒障害児及び自立施設児では「遅れがある」が最も高く、その割合はそれぞれ53.4%（前回57.0%）、64.0%（前回66.9%）となっている。

表9 学業の状況別児童数

	総数	すぐれている	特に問題なし	遅れがある	不詳
里親委託児	3,611 100.0%	175 4.8%	1,587 43.9%	573 15.9%	1,276 35.3%
養護施設児	31,593 100.0%	1,231 3.9%	15,097 47.8%	8,661 27.4%	6,604 20.9%
情緒障害児	1,104 100.0%	20 1.8%	484 43.8%	590 53.4%	10 0.9%
自立施設児	1,995 100.0%	82 4.1%	599 30.0%	1,277 64.0%	37 1.9%
母子施設児	6,552 100.0%	233 3.6%	2,976 45.4%	997 15.2%	2,346 35.8%

10 通学状況（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、母子施設児）

通学状況については、里親委託児、養護施設児、情緒障害児及び母子施設児ともに「普通に通学」が最も多く、その割合はそれぞれ61.9%（前回54.4%）、75.8%（前回73.0%）、89.6%（前回82.8%）、50.1%（前回51.4%）となっている。

表10 通学状況別児童数

	総数	普通に通学	欠席しがち	不詳
里親委託児	3,611 100.0%	2,235 61.9%	88 2.4%	1,288 35.7%
養護施設児	31,593 100.0%	23,937 75.8%	1,025 3.2%	6,631 21.0%
情緒障害児	1,104 100.0%	989 89.6%	98 8.9%	17 1.5%
母子施設児	6,552 100.0%	3,281 50.1%	938 14.3%	2,333 35.6%

Ⅱ 委託（入所）時の家庭の状況（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児）

1 養護問題発生理由

養護問題発生理由の主なものは、里親委託児の場合には「養育拒否」16.0%（前回19.9%）、「父又は母の行方不明」14.3%（前回14.7%）であり、養護施設児の場合には「父又は母の虐待・酷使」14.4%（前回11.1%）、「父又は母の放任・怠だ」13.8%（前回11.7%）、乳児院の場合には「父又は母の精神疾患等」19.1%（前回14.9%）、「父又は母の虐待・酷使」9.2%（前回4.6%）となっている。

また、情緒障害児の場合には「父又は母の虐待・酷使」26.5%（前回22.9%）、「父又は母の放任・怠だ」16.4%（前回14.1%）であり、自立施設児の場合には「父又は母の放任・怠だ」22.3%（前回20.7%）、「父又は母の虐待・酷使」17.0%（前回11.3%）となっている。

なお、一般的に「虐待」とされる「放任・怠だ」「虐待・酷使」「棄児」「養育拒否」を合計すると、里親委託児は全体の36.7%（前回40.4%）、養護施設児33.1%（前回27.4%）、情緒障害児47.9%（前回42.1%）、自立施設児45.8%（前回37.5%）、乳児院児27.2%（前回20.5%）となっており、前回調査に比し里親を除き、すべての施設において虐待を理由とした委託及び入所が増えている。

表11 養護問題発生理由別児童数

	児童数					構成割合 (%)				
	里親委託児	養護施設児	情緒障害児	自立施設児	乳児院児	里親委託児	養護施設児	情緒障害児	自立施設児	乳児院児
総数	3,611	31,593	1,104	1,995	3,299	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
父の死亡	46	195	14	9	2	1.3	0.6	1.3	0.5	0.1
母の死亡	192	580	10	25	35	5.3	1.8	0.9	1.3	1.1
父の行方不明	109	328	2	16	8	3.0	1.0	0.2	0.8	0.2
母の行方不明	408	1,869	14	28	136	11.3	5.9	1.3	1.4	4.1
父母の離婚	136	1,304	52	203	82	3.8	4.1	4.7	10.2	2.5
両親の未婚	*	*	*	*	260	*	*	*	*	7.9
父母の不和	21	252	19	49	42	0.6	0.8	1.7	2.5	1.3
父の拘禁	65	563	10	24	30	1.8	1.8	0.9	1.2	0.9
母の拘禁	108	1,048	15	24	146	3.0	3.3	1.4	1.2	4.4
父の入院	31	327	4	8	5	0.9	1.0	0.4	0.4	0.2
母の入院	159	1,506	10	12	122	4.4	4.8	0.9	0.6	3.7
家族の疾病の付添	*	*	*	*	14	*	*	*	*	0.4
次子出産	*	*	*	*	22	*	*	*	*	0.7
父の就労	82	1,762	13	19	24	2.3	5.6	1.2	1.0	0.7
母の就労	99	1,293	19	72	221	2.7	4.1	1.7	3.6	6.7
父の精神疾患等	12	180	7	15	7	0.3	0.6	0.6	0.8	0.2
母の精神疾患等	277	3,197	145	158	622	7.7	10.1	13.1	7.9	18.9
父の放任・怠だ	34	654	29	100	13	0.9	2.1	2.6	5.0	0.4
母の放任・怠だ	319	3,707	152	346	276	8.8	11.7	13.8	17.3	8.4
父の虐待・酷使	102	1,849	137	181	119	2.8	5.9	12.4	9.1	3.6
母の虐待・酷使	156	2,693	156	158	184	4.3	8.5	14.1	7.9	5.6
棄児	134	166	3	12	50	3.7	0.5	0.3	0.6	1.5
養育拒否	579	1,378	52	116	256	16.0	4.4	4.7	5.8	7.8
破産等の経済的理由	210	2,390	22	24	188	5.8	7.6	2.0	1.2	5.7
児童の問題による監護困難	36	1,047	117	148	21	1.0	3.3	10.6	7.4	0.6
その他	217	2,674	92	192	353	6.0	8.5	8.3	9.6	10.7
不詳	79	631	10	56	61	2.2	2.0	0.9	2.8	1.8

注) *は、調査項目としていない。

2 児童の被虐待経験の有無、虐待の種類

「虐待経験あり」の割合をみると、里親委託児で31.5%、養護施設児で53.4%、情緒障害児で71.6%、自立施設児で65.9%、乳児院児で32.3%となっている。

また、里親委託児、養護施設児及び乳児院児でネグレクトが最も多く、その割合は67.1%、66.2%、71.4%である。情緒障害児及び自立施設児で身体的虐待が最も多く、その割合は60.5%、59.5%である。

表 1 2 被虐待経験の有無及び虐待の種類

	総数	虐待経験あり	虐待経験の種類（複数回答）				虐待経験なし	不明
			身体的虐待	性的虐待	ネグレクト	心理的虐待		
里親委託児	3,611	1,138	348	56	764	174	2,219	237
	100.0%	31.5%	30.6%	4.9%	67.1%	15.3%	61.5%	6.6%
養護施設児	31,593	16,867	6,707	664	11,159	3,440	12,902	1,752
	100.0%	53.4%	39.8%	3.9%	66.2%	20.4%	40.8%	5.5%
情緒障害児	1,104	790	478	67	372	254	295	17
	100.0%	71.6%	60.5%	8.5%	47.1%	32.2%	26.7%	1.5%
自立施設児	1,995	1,314	782	422	597	276	528	142
	100.0%	65.9%	59.5%	32.1%	45.4%	21.0%	26.5%	7.1%
乳児院児	3,299	1,066	335	8	761	98	2,091	126
	100.0%	32.3%	31.4%	0.8%	71.4%	9.2%	63.4%	3.8%

注) 総数には不詳を含む。

3 委託（入所）時の保護者の状況

委託（入所）時に「両親又は一人親あり」の割合をみると、里親委託児で67.7%（前回67.8%）、養護施設児で83.2%（前回91.5%）、情緒障害児で87.3%（前回85.3%）、自立施設児で87.7%（前回89.1%）、乳児院児で89.0%（前回84.6%）となっており、里親委託児で最も低くなっている。

「両親又は一人親あり」の児童についてみると、最も割合の多い保護者は、里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児が「実母のみ」でそれぞれ59.0%（前回56.9%）、42.5%（前回38.1%）、46.5%（前回36.6%）、45.1%（前回40.3%）であり、乳児院児が「実父母有」で52.4%（前回46.9%）となっている。

「両親ともいない・不明」の児童についてみると、祖父母が養育を行っている割合が高い。

表 1 3-1 委託（入所）時の保護者の状況別児童数

	総数	両親又は一人親	両親ともいない	両親とも不明	不詳
里親委託児	3,611	2,443	769	243	156
	100.0%	67.7%	21.3%	6.7%	4.3%
養護施設児	31,593	26,277	2,730	708	1,878
	100.0%	83.2%	8.6%	2.2%	5.9%
情緒障害児	1,104	964	94	7	39
	100.0%	87.3%	8.5%	0.6%	3.5%
自立施設児	1,995	1,750	126	23	96
	100.0%	87.7%	6.3%	1.2%	4.8%
乳児院児	3,299	2,935	68	65	231
	100.0%	89.0%	2.1%	2.0%	7.0%

表 1 3-2 両親又は一人親ありの内訳別児童数

	総 数	実父母有	実父のみ	実母のみ	実父養母	養父実母	養父養母	養父のみ	養母のみ	不詳
里親委託児	2,443 100.0%	515 21.1%	342 14.0%	1,441 59.0%	37 1.5%	88 3.6%	5 0.2%	9 0.4%	4 0.2%	2 0.1%
養護施設児	26,277 100.0%	7,301 27.8%	4,858 18.5%	11,161 42.5%	662 2.5%	2,029 7.7%	48 0.2%	108 0.4%	74 0.3%	36 0.1%
情緒障害児	964 100.0%	251 26.0%	80 8.3%	448 46.5%	54 5.6%	118 12.2%	3 0.3%	4 0.4%	6 0.6%	- -
自立施設児	1,750 100.0%	432 24.7%	218 12.5%	790 45.1%	70 4.0%	221 12.6%	5 0.3%	8 0.5%	4 0.2%	2 0.1%
乳児院児	2,935 100.0%	1,537 52.4%	84 2.9%	1,251 42.6%	5 0.2%	44 1.5%	4 0.1%	1 0.0%	2 0.1%	7 0.2%

表 1 3-3 両親ともいない・不明の内訳別児童数

	総 数	祖父母	養父母 の 親	兄・姉	義 兄 義 姉	伯(叔) 父 母	義 伯 (叔) 父 母	里 親	その他	な し	不 明	不 詳
里親委託児	1,012 100.0%	331 32.7%	3 0.3%	17 1.7%	1 0.1%	69 6.8%	2 0.2%	47 4.6%	327 32.3%	82 8.1%	118 11.7%	15 1.5%
養護施設児	3,438 100.0%	1,047 30.5%	16 0.5%	122 3.5%	16 0.5%	252 7.3%	26 0.8%	157 4.6%	1,381 40.2%	170 4.9%	147 4.3%	104 3.0%
情緒障害児	101 100.0%	26 25.7%	- -	4 4.0%	1 1.0%	8 7.9%	- -	9 8.9%	39 38.6%	10 9.9%	2 2.0%	2 2.0%
自立施設児	149 100.0%	49 32.9%	1 0.7%	10 6.7%	- -	20 13.4%	- -	8 5.4%	49 32.9%	6 4.0%	- -	6 4.0%
乳児院児	133 100.0%	27 20.3%	20 15.0%	- -	1 0.8%	2 1.5%	- -	9 6.8%	19 14.3%	11 8.3%	6 4.5%	38 28.6%

Ⅲ 家族との関係（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児）

1 家族との交流関係

家族との交流関係について「交流なし」の割合は、里親委託児で71.9%（前回75.7%）、養護施設児で16.1%（前回16.6%）、情緒障害児で9.0%（前回7.2%）、自立施設児で7.3%（前回11.5%）、乳児院児で20.2%（前回23.4%）となっており、特に、里親委託児で「交流なし」が高くなっている。施設入所児童の交流では帰省の割合が高く、養護施設児で52.7%（前回51.6%）、情緒障害児で69.0%（前回72.4%）、自立施設児で45.3%（前回48.1%）となっているが、乳児院児では面会の割合が多く、51.3%（前回48.3%）となっている。

表14-1 家族との交流関係別児童数

	総数	交流あり			交流なし	不詳
		帰省	面会	電話手紙連絡		
里親委託児	3,611 100.0%	327 9.1%	461 12.8%	193 5.3%	2,598 71.9%	32 0.9%
養護施設児	31,593 100.0%	16,657 52.7%	5,947 18.8%	3,020 9.6%	5,071 16.1%	898 2.8%
情緒障害児	1,104 100.0%	762 69.0%	180 16.3%	55 5.0%	99 9.0%	8 0.7%
自立施設児	1,995 100.0%	904 45.3%	309 15.5%	147 7.4%	146 7.3%	489 24.5%
乳児院児	3,299 100.0%	652 19.8%	1,693 51.3%	237 7.2%	667 20.2%	50 1.5%

次に家族との交流頻度であるが、電話・手紙において「年2回～11回」が最も高く、里親委託児52.8%（前回49.3%）、養護施設児63.5%（前回61.6%）、情緒障害児で67.3%（前回64.5%）、自立施設児51.7%（前回52.9%）、乳児院児47.7%（前回57.4%）であった。

また、面会において「月1回以上」が最も高かったのは乳児院児48.9%（前回47.7%）であった。「年2回～11回」が最も高かったのは、里親委託児62.3%（前回52.5%）、養護施設児68.5%（前回67.5%）、情緒障害児63.9%（前回62.3%）、自立施設児60.8%（前回58.2%）であった。

さらに、帰省において「月1回以上」が最も高かったのは乳児院児で61.2%（前回56.7%）、情緒障害児49.6%（前回62.8%）であった。「年2回～11回」が最も高かったのは、里親委託児54.4%（前回54.3%）、養護施設児70.2%（前回71.0%）、自立施設児72.2%（前回76.2%）であった。

表14-2 家族との交流頻度別児童数

	児童数					構成割合 (%)				
	里親委託児	養護施設児	情緒障害児	自立施設児	乳児院児	里親委託児	養護施設児	情緒障害児	自立施設児	乳児院児
【電話・手紙】										
総数	193	3,020	55	147	237	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
月1回以上	34	590	9	50	85	17.6%	19.5%	16.4%	34.0%	35.9%
年2回～11回	102	1,917	37	76	113	52.8%	63.5%	67.3%	51.7%	47.7%
年1回ぐらい	54	501	9	21	39	28.0%	16.6%	16.4%	14.3%	16.5%
不詳	3	12	-	-	-	1.6%	0.4%	-	-	-
【面会】										
総数	461	5,947	180	309	1,693	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
月1回以上	91	1,162	49	104	828	19.7%	19.5%	27.2%	33.7%	48.9%
年2回～11回	287	4,072	115	188	737	62.3%	68.5%	63.9%	60.8%	43.5%
年1回ぐらい	82	704	16	17	127	17.8%	11.8%	8.9%	5.5%	7.5%
不詳	1	9	-	-	1	0.2%	0.2%	-	-	0.1%
【帰省】										
総数	327	16,657	762	904	652	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
月1回以上	103	4,025	378	220	399	31.5%	24.2%	49.6%	24.3%	61.2%
年2回～11回	178	11,694	346	653	230	54.4%	70.2%	45.4%	72.2%	35.3%
年1回ぐらい	43	924	37	26	23	13.1%	5.5%	4.9%	2.9%	3.5%
不詳	3	14	1	5	-	0.9%	0.1%	0.1%	0.6%	-

2 児童の今後の見通し

児童の今後の見通しについては、里親委託児では「自立まで現在の里親家庭で養育」60.9%（前回49.2%）、「養子縁組又は里親委託」17.0%（前回28.4%）に対し、「保護者のもとへ復帰」は13.8%（前回13.9%）にすぎない。養護施設児では「自立まで現在の児童養護施設で養育」55.1%（前回56.5%）、情緒障害児では「保護者のもとへ復帰」52.4%（前回53.5%）、自立施設児では「保護者のもとへ復帰」61.0%（前回60.8%）、乳児院児では「現在の乳児院で養育」34.1%（前回35.6%）が最も高くなっている。

表15-1 児童の今後の見通し別児童数（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児）

	総数	保護者のもとへ復帰	親類等の家庭への引き取り	自立まで現在のままで養育	養子縁組又は里親委託	現在のままでは養育困難	その他	不詳
里親委託児	3,611 100.0%	498 13.8%	32 0.9%	2,199 60.9%	613 17.0%	49 1.4%	215 6.0%	5 0.1%
養護施設児	31,593 100.0%	11,193 35.4%	541 1.7%	17,398 55.1%	440 1.4%	380 1.2%	1,544 4.9%	97 0.3%
情緒障害児	1,104 100.0%	578 52.4%	21 1.9%	147 13.3%	11 1.0%	17 1.5%	329 29.8%	1 0.1%
自立施設児	1,995 100.0%	1,217 61.0%	38 1.9%	331 16.6%	25 1.3%	54 2.7%	326 16.3%	4 0.2%

表15-2 児童の今後の見通し別児童数（乳児院児）

	総数	保護者のもとへ復帰	親類等の家庭への引き取り	現在の乳児院で養育	児童養護施設へ	母子生活支援施設へ	養子縁組又は里親委託	その他	不詳
乳児院児	3,299 100.0%	840 25.5%	21 0.6%	1,126 34.1%	736 22.3%	6 0.2%	323 9.8%	243 7.4%	4 0.1%

IV 里親家庭の状況

1 里親申込みの動機

調査日（平成20年2月1日）現在で、現に委託されている里親家庭の総数は2,626世帯となっており、前回調査の1,958世帯より668世帯（34.1%）増加している。

里親申込みの動機別をみると「児童福祉への理解から」37.1%（前回32.3%）、「子どもを育てたいから」31.4%（前回33.6%）、「養子を得たいため」21.8%（前回29.8%）となっている。前回調査と比較すると、「養子を得たいため」の割合が下がり、「児童福祉への理解から」の割合が上がっている。

表16 里親申込みの動機別里親家庭数

総数	児童福祉への理解から	子どもを育てたいから	養子を得たいため	その他	不詳
2,626	974	825	572	224	31
100.0%	37.1%	31.4%	21.8%	8.5%	1.2%

2 登録期間

児童が委託されている里親家庭の登録期間は、「5年未満」が46.5%（前回38.8%）と最も多く、以下、登録期間が長くなるに従い減っていくが、「15年以上」も15.8%（前回18.5%）ある。

表17 登録期間別里親家庭数

総数	5年未満	5～9年	10～14年	15年以上	不詳
2,626	1,222	601	381	415	7
100.0%	46.5%	22.9%	14.5%	15.8%	0.3%

3 委託児童数

委託児童数は、「1人」が51.8%（前回55.5%）と最も多く、「2人」の25.0%（前回24.3%）と合わせて里親家庭の大部分を占めており、「3人」11.1%（前回8.8%）、「4人」5.7%（前回5.0%）、「5人以上」5.0%（前回5.2%）となっている。

表18 委託児童別里親家庭数

総数	1人	2人	3人	4人	5人以上	不詳
2,626	1,360	657	292	149	130	38
100.0%	51.8%	25.0%	11.1%	5.7%	5.0%	1.4%

4 里親の年齢

里親の年齢は「50歳代」が〔里父・里母合わせて（38.5%）〕最も多く、「40歳代」が〔里父・里母合わせて（27.2%）〕これに次いでいる。

なお、前回調査と比べると「40歳代」〔里父（前回31.5%）・里母（前回39.8%）〕が減少し、「60歳以上」〔里父（前回16.1%）、里母（前回11.5%）〕が増加している。

表19 里親の年齢別里親家庭数

	総数	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	いない	不詳
里父	2,626 100.0%	12 0.5%	148 5.6%	599 22.8%	1,024 39.0%	621 23.6%	219 8.3%	3 0.1%
里母	2,626 100.0%	26 1.0%	195 7.4%	828 31.5%	999 38.0%	538 20.5%	-	40 1.5%

5 里親の仕事の種類

就業している里親の仕事の種類は、「専門・技術」が19.2%（前回20.5%）と最も多く、次いで「事務」が12.8（前回13.5%）、「宗教家」10.3%（前回8.8%）となっており、「社会福祉事業従事者」7.5%（前回6.3%）、「宗教家」10.3%（前回8.8%）及び「サービス」7.8%（前回6.2%）が漸増している。

表20 仕事の種類別里親家庭数

総数	社会福祉事業従事者	宗教家	教員	専門・技術	管理	事務	販売	農林・漁業	単純労働	サービス	その他の就業	不詳
2,626 100.0%	198 7.5%	270 10.3%	82 3.1%	503 19.2%	110 4.2%	336 12.8%	158 6.0%	110 4.2%	131 5.0%	206 7.8%	435 16.6%	87 3.3%

6 里親家庭の年間所得

里親家庭の平成18年年間所得（税込）は表21のとおり、一般家庭と比較してみると、「平均所得金額」は里親家庭で632万円、一般家庭で566万8千円となっている。

表21 年間所得（税込）

	平均所得金額	回答世帯数
里親家庭	632.0万円	2,626世帯
一般家庭	566.8万円	48,023千世帯

注）一般家庭は「平成19年国民生活基礎調査」

7 里親家庭の住宅所有状況

里親家庭の住宅所有状況は、「自家・一戸建て」が75.8%（前回77.9%）と多くを占めており、次いで「自家・集合住宅」6.7%（前回6.9%）、「借家・一戸建て」6.4%（前回4.9%）、「借家・集合住宅」5.0%（前回4.5%）となっている。

表22 住宅の所有状況別里親家庭数

総数	自家		公営住宅	公社・公団住宅	給与住宅	借家		間借	その他	不明	不詳
	一戸建て	集合住宅				一戸建て	集合住宅				
2,626 100.0%	1,990 75.8%	175 6.7%	61 2.3%	14 0.5%	32 1.2%	168 6.4%	130 5.0%	5 0.2%	21 0.8%	3 0.1%	27 1.0%

V 母子生活支援施設入所世帯（母親）の状況

1 児童数

調査日（平成20年2月1日）現在における母子生活支援施設入所世帯数は4,056世帯となっており、前回調査の4,343世帯より287世帯（6.6%）減少している。

母子生活支援施設入所世帯を児童数別にみると、「1人」が55.4%（前回54.2%）と最も多く、次いで「2人」が31.2%（前回31.7%）となっている。

表23 児童数別母子生活支援施設入所世帯数

総数	1人	2人	3人	4人以上	不詳
4,056	2,246	1,264	420	120	6
100.0%	55.4%	31.2%	10.4%	3.0%	0.1%

2 入所理由及び在所期間

(1) 入所理由

母子生活支援施設への入所理由は、「配偶者からの暴力」が40.8%（前回28.4%）で最も多く、「経済的理由による」の24.6%（前回26.8%）、「住宅事情による」の15.3%（前回16.0%）がこれに次いでいる。

表24 入所理由別母子生活支援施設入所世帯数

総数	入所前の家庭内環境の不適切による	母親の心身の不安定による	職業上の理由による	住宅事情による	経済的理由による	配偶者からの暴力	その他	不詳
4,056	334	123	16	621	996	1,655	223	88
100.0%	8.2%	3.0%	0.4%	15.3%	24.6%	40.8%	5.5%	2.2%

(2) 在所期間

母子生活支援施設へ入所してからの期間は、「5年未満」が83.6%（前回80.6%）と大部分を占め、「5年未満」の中でも「1年未満」33.2%（前回31.6%）、「1年」22.2%（前回20.1%）となっている。

表25 在所期間別母子生活支援施設入所世帯数

総数	5年未満	1年未満	1年	2年	3年	4年	5～9年	10年以上	不詳
4,056	3,399	1,345	901	505	372	276	514	137	6
100.0%	83.8%	33.2%	22.2%	12.5%	9.2%	6.8%	12.7%	3.4%	0.1%

3 入所時の年齢

母子生活支援施設入所世帯の入所時の母親の年齢は、30歳代が50.7%（前回48.7%）と約半数を占め、次いで40歳代が16.9%（前回15.9%）、20歳代が29.4%（前回32.1%）となっている。

表26 入所時の年齢別母子生活支援施設入所世帯数

総数	20歳未満	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50歳以上	不明
4,056	56	388	805	1,071	984	488	199	57	8
100.0%	1.4%	9.6%	19.8%	26.4%	24.3%	12.0%	4.9%	1.4%	0.2%

4 母子世帯になった理由

母子世帯になった理由は、「離婚」が61.5%（前回66.7%）と最も多く、次いで「未婚の母」の13.1%（前回13.7%）となっている。

表27 母子世帯になった理由別母子生活支援施設入所世帯数

総数	死別			離婚	遺棄	生死不明	未婚の母	その他	不詳
	病死	交通事故死	その他						
4,056	33	5	17	2,493	265	5	533	666	39
100.0%	0.8%	0.1%	0.4%	61.5%	6.5%	0.1%	13.1%	16.4%	1.0%

5 年金等の受給状況

年金等の受給状況は母子生活支援施設入所世帯の7割以上が「児童扶養手当」76.6%（前回75.7%）を受給しており、次いで「児童手当」を受給している世帯が68.0%（前回39.1%）と多いが、「国民年金」等の各種年金は全部を合計しても3.2%（前回2.4%）と1割にも満たない。

表28 年金等の受給状況別母子生活支援施設入所世帯数

総数	受給あり（重複回答）									受給なし
	国民年金			厚生年金 船員保険	共済年金 等	児童手当	児童扶養 手当	特別児童 扶養手当	その他	
	母子年金	遺族基礎 年金	その他							
4,056	14	22	67	29	2	2,759	3,105	118	407	624
100.0%	0.3%	0.5%	1.7%	0.7%	0.0%	68.0%	76.6%	2.9%	10.0%	15.4%

6 公営住宅入居希望の有無及び現在の状況

(1) 公営住宅入居希望

公営住宅入居希望は、母子生活支援施設入所世帯の57.0%（前回56.4%）で過半数を超えている。

表29 公営住宅入居希望の有無別母子生活支援施設入所世帯数

総数	あり	なし	分からない	不詳
4,056	2,313	784	952	7
100.0%	57.0%	19.3%	23.5%	0.2%

(2) 現在の状況

現在の状況は、「適当な住居さえあれば退所できる」という者が24.0%（前回27.4%）、「1年以内に退所の見込み」という者が13.5%（前回10.0%）、「末子が18歳になるまで退所困難」という者が12.8%（前回15.9%）、「3ヶ月以内に退所の見込み」の者が10.7%（前回7.6%）となっている。

表30 現在の状況別母子生活支援施設入所世帯数

総数	3か月以内に退所の見込み	1年以内に退所の見込み	適当な住居さえあれば退所できる	末子が18歳になるまで退所困難	その他	不詳
4,056	433	546	973	521	1,568	15
100.0%	10.7%	13.5%	24.0%	12.8%	38.7%	0.4%

7 従業上の地位及び仕事の種類

(1) 従業上の地位

母子生活支援施設の入所世帯の母親の 74.6% (前回 75.2%) の母親は就業している。就業している母親は、「臨時・日雇・パート」が 53.5% (前回 51.1%) と最も多く、「常用勤労者」が 19.0% (前回 22.4%) とこれに次いでいる。

前回調査に比べて、「常用勤労者」が減り「臨時・日雇・パート」及び「不就業」が増えている。

表 3 1-1 従業上の地位別母子生活支援施設入所世帯数

総数	事業主	常用勤労者	臨時・日雇・パート	その他の就業	不就業	不明	不詳
4,056	11	770	2,170	76	1,007	13	9
100.0%	0.3%	19.0%	53.5%	1.9%	24.8%	0.3%	0.2%

なお、不就業の理由であるが、最も高い割合であったのは、「条件にあった求人がない」で 24.9% (前回 26.7%)、次いで、「精神的・身体的障害がある」の 23.6% (前回 16.4%)、「疾病がある、もしくは虚弱である」の 13.9% (前回 15.3%) であった。

表 3 1-2 不就業の理由別母子生活支援施設入所世帯数

総数	講習等で就業準備中	保育が確保できない	乳児がいる	条件にあった求人なし	就労習慣がない	就労意欲が乏しい	疾病・虚弱である	精神的・身体的障害がある	児童に障害・疾病がある	不詳
1,007	91	79	37	251	35	79	140	238	43	14
100.0%	9.0%	7.8%	3.7%	24.9%	3.5%	7.8%	13.9%	23.6%	4.3%	1.4%

(2) 仕事の種類

就業している母親について仕事の種類をみると、前回と順位は変わらず、「技能工・生産工程作業員及び労務作業員」が 27.3% (前回 27.4%) と最も多く、次いで「サービス業従事者」26.3% (前回 26.0%)、「事務従事者」14.6% (前回 14.5%) となっている。

表 3 2 仕事の種類別母子生活支援施設入所世帯数

総数	専門・技術	管理	事務	販売	農林・漁業	運輸・通信	技能・生産等	保安職業	サービス	その他就業者	不詳
3,049	392	8	445	292	5	38	831	13	803	191	31
100.0%	12.9%	0.3%	14.6%	9.6%	0.2%	1.2%	27.3%	0.4%	26.3%	6.3%	1.0%

注) 「不就業」を除く。

8 転職希望の有無

就業している母親のうち、転職を希望する母親は 28.1% (前回 27.2%)、転職希望のない母親は 48.6% (前回 51.4%) となっている。

表 3 3 転職希望の有無別母子生活支援施設入所世帯数

総数	あり	なし	分からない
3,049	858	1,482	681
100.0%	28.1%	48.6%	22.3%

注) 「不就業」を除く。

9 年間所得

母子生活支援施設入所世帯の平成19年の年間所得分布は、表33のとおりとなっている。「不明」を除いた分について「平均所得金額」をみると、174万5千円となっており、一般家庭の563.8万円（平成19年国民生活基礎調査の結果による）の3割程度に止まっている。

表34 年間所得別母子生活支援施設入所世帯数

数 総	100万円 未満	100～199 万円	200～299 万円	300～399 万円	400万円 以上	不 明	平均所得 金 額
4,056 100.0%	475 11.7%	1,660 40.9%	961 23.7%	149 3.7%	25 0.6%	786 19.4%	174.5 万円

注) 構成割合及び「平均所得金額」は総数から不明を除いて算出

10 母子生活支援施設に入所している児童の虐待経験の状況

虐待経験の状況については、「虐待を受けたことがある」が全体の41.4%（前回18.5%）であり、男子41.6%（前回20.0%）、女子41.3%（前回16.9%）となっている。

表35 虐待を受けた経験別母子生活支援施設入所児童数

	総 数	あ り	な し	不 明
総数	6,552 100.0%	2,711 41.4%	3,561 54.3%	252 3.8%
男	3,257	41.6%	54.4%	3.7%
女	3,272	41.3%	54.4%	4.0%

注) 総数には、性別不詳を含む。

VI 児童養護施設の年長児童の状況

1 年長児童の就学状況

今回の調査で回答が得られた中学3年生以上の年長児童は、7,265人であった。その内男子は3,757人(51.7%)、女子は3,480人(47.9%)、性別不詳が28人(0.4%)となっている。

また、就学状況別の年長児童数は、中学3年生は2,402人(33.1%)、高校生(通信制を含む)は4,614人(63.5%)である。

それ以外では、専修学校には53人(0.7%)が、公共職業訓練校には26人(0.4%)が通っている。

表36 児童養護施設の年長児童の就学状況

	総数	中3	中学卒	高1	高2	高3	高4	通信制	高校卒	専修学	公職訓	その他	不詳
総数	7,265 100.0%	2,402 33.1%	30 0.4%	1,729 23.8%	1,505 20.7%	1,326 18.3%	32 0.4%	22 0.3%	14 0.2%	53 0.7%	26 0.4%	95 1.3%	31 0.4%
男	3,757 51.7% [100.0]	1,247 [33.2%]	16 [0.4%]	933 [24.8%]	740 [19.7%]	694 [18.5%]	16 [0.4%]	7 [0.2%]	8 [0.2%]	27 [0.7%]	24 [0.6%]	32 [0.9%]	13 [0.3%]
女	3,480 47.9% [100.0]	1,151 [33.1%]	14 [0.4%]	791 [22.7%]	758 [21.8%]	631 [18.1%]	15 [0.4%]	15 [0.4%]	6 [0.2%]	26 [0.7%]	2 [0.1%]	63 [1.8%]	8 [0.2%]

注) 総数には性別不詳・学年不詳を含む。

総数欄の%つきの数字は、就学状況の構成割合。[]内の数字は、就学状況別構成割合。

2 児童の生活行動経験

思いやりの行動や社会的自立に関わる行動について質問(質問項目については参考を参照)した中で最も多く経験しているのは「自分の気に入った洋服や持ち物を選んで買ったこと」の93.0%でほとんどの児童が経験しており、逆に最も少ないのは「自分や友人たちと計画して、旅行したこと」の21.5%の児童しか経験がない。

男女間で差の大きな項目は、「赤ちゃんをあやしたり、おむつの世話をしたこと」で女子の経験が23.9ポイント大きくなっている。就学状況別で差の大きい項目は、「一人で銀行や役所(区役所・市役所・町役場等)などで、手続きをしたこと」、「アルバイトやパートタイムの仕事をしたこと」で中3から高校高学年に進むに従って経験の割合が高くなっている。

「いじめ」に関しては、「大勢で1人をいじめてしまったこと」25.0%、「いじめを受けていたこと」38.6%であり、いじめた側は男子の比率が高く、いじめられる側は女子の比率が高い。

また、「虐待」に関しては、「虐待を受けたこと」が全体の27.4%であり、女子の経験が10.5ポイント男子より大きい結果となっている。

表37 児童養護施設の年長児童の経験状況

	実数	ア.ネコの世話	イ.人を助ける	ウ.やりとげる	エ.旅行	オ.赤ちゃん	カ.ボランティア	キ.手続き	ク.買う	ケ.アルバイト	コ.大勢でいじめた	サ.いじめを受けていた	シ.虐待を受けた
総数	7,265	63.3%	73.1%	76.3%	21.5%	45.3%	68.4%	28.3%	93.0%	37.6%	25.0%	38.6%	27.4%
男	3,757	60.6%	69.8%	76.3%	22.4%	33.8%	67.7%	29.6%	90.9%	36.2%	25.9%	32.8%	22.3%
女	3,480	66.3%	76.8%	76.6%	20.5%	57.7%	69.2%	26.8%	95.3%	39.2%	23.9%	44.9%	32.8%
中3	2,402	65.0%	71.9%	75.7%	22.4%	46.3%	67.5%	14.1%	92.0%	4.8%	25.1%	37.0%	27.6%
高1	1,729	62.6%	72.2%	75.7%	18.5%	41.8%	68.4%	27.1%	92.1%	36.4%	27.0%	37.4%	27.1%
高2	1,505	62.7%	72.8%	75.9%	21.7%	47.9%	69.2%	36.5%	93.9%	55.5%	24.5%	41.2%	28.6%
高3・4	1,358	62.6%	77.2%	80.1%	23.2%	45.3%	70.8%	44.0%	95.2%	73.6%	21.9%	38.3%	25.3%
専・職	79	59.5%	68.4%	69.6%	24.1%	43.0%	65.8%	44.3%	93.7%	51.9%	22.8%	48.1%	27.8%
その他	161	61.5%	71.4%	72.0%	21.1%	45.3%	58.4%	36.0%	93.2%	64.6%	34.8%	50.3%	33.5%

注) 総数には性別不詳・学年不詳を含む。

(参考) 表37の全質問項目一覧

- 「ア. 犬、ネコなどや家畜などの世話をしたこと」
- 「イ. 困っている人を助けてあげたこと」
- 「ウ. 自分で決めた事(スポーツや勉強など)をやりとげ、よくやったなとうれしく思うこと」
- 「エ. 自分や友人たちと計画して、旅行したこと」
- 「オ. 赤ちゃんをあやしたり、おむつの世話をしたこと」
- 「カ. ボランティアをしたこと」
- 「キ. 一人で銀行や役所(区役所・市役所・町役場等)などで、手続きをしたこと」
- 「ク. 自分の気に入った洋服や持ち物を選んで買ったこと」
- 「ケ. アルバイトやパートタイムの仕事をしたこと」
- 「コ. 大勢で1人をいじめてしまったこと」
- 「サ. いじめを受けていたこと」
- 「シ. 虐待を受けたこと」

3 大切なこと

大切なことと思うものについて、10項目(質問項目については参考を参照)の中から、3つを選び回答してもらった。単語自体には多義的なものも多いが、特に限定せず児童の判断に任せた。

最も選択率が高かったものは、「5. 健康であること」の53.2%(前回51.2%)で、次いで「4. 友達がたくさんいること」の52.6%(前回54.1%)、「7. 将来に夢を持っていること」の41.8%(前回49.1%)となっている。

逆に、最も選択率の低かったものは、「8. 人のいやがる事をすすんでやること」の6.8%(前回8.2%)で、次いで「1. 勉強ができること」11.6%(前回10.1%)、「7. 勇気をもっていること」の18.8%(28.5%)となっている。男女ともに「8. 人のいやがる事をすすんでやること」が最も選択されず、次いで「1. 勉強ができること」、「7. 勇気をもっていること」の順は男女とも同じである。

男女間で差の大きい項目は、「6. 運動や歌などで、何か得意なもの(特技)があること」男子が女子より9.6ポイント高いのに対し、「2. 家族で仲良く生活すること」では女子が8.2ポイント、「9. 勇気を持っていること」では女子が4.9ポイント、男子より大きくなっている。

就学状況別で差の大きい項目は、中3から高校高学年に進むにつれ、「5. 健康であること」及び「10. 安定した仕事をする事」は割合が高くなっている。

表38 児童養護施設の年長児童の大切なこと(3つ選択)

	実数	1. 勉強	2. 家族	3. お金	4. 友達	5. 健康	6. 特技	7. 夢	8. すすんでやる	9. 勇気	10. 仕事
総数	7,265	11.6%	39.9%	20.9%	52.6%	53.2%	27.2%	41.8%	6.8%	18.8%	21.7%
男	3,757	12.4%	36.0%	20.7%	53.3%	52.6%	31.8%	42.8%	6.3%	16.5%	22.1%
女	3,480	10.7%	44.2%	21.2%	51.8%	54.1%	22.2%	40.9%	7.2%	21.4%	21.4%
中3	2,402	15.0%	45.3%	18.7%	53.2%	51.7%	28.0%	40.7%	6.0%	20.6%	15.6%
高1	1,729	11.6%	38.1%	21.2%	55.9%	52.1%	27.5%	42.4%	5.7%	18.4%	21.3%
高2	1,505	10.8%	38.3%	23.0%	50.3%	53.4%	28.2%	42.3%	7.4%	16.6%	25.3%
高3・4	1,358	6.5%	35.3%	21.0%	51.4%	58.0%	24.9%	43.2%	8.8%	19.4%	26.6%
専・職	79	11.4%	38.0%	13.9%	46.8%	65.8%	20.3%	39.2%	7.6%	16.5%	38.0%
その他	161	11.2%	36.6%	34.8%	45.3%	44.7%	24.8%	38.5%	7.5%	16.8%	34.8%

注) 総数には性別不詳・学年不詳を含む。

(参考) 表38の全質問項目一覧

- 「1. 勉強ができること」
- 「2. 家族で仲良く生活すること」
- 「3. お金がたくさんあること」
- 「4. 友達がたくさんいること」
- 「5. 健康であること」
- 「6. 運動や歌などで、何か得意なもの(特技)があること」
- 「7. 将来に夢を持っていること」
- 「8. 人のいやがる事をすすんでやること」
- 「9. 勇気を持っていること」
- 「10. 安定した仕事をする事」

4 高等学校(各種学校)進学希望

児童養護施設入所児童のうち、中学3年生の高等学校又は各種学校への進学希望は、表39のとおりである。

調査の時点で進学を希望する児童の割合は84.5%(前回88.0%)であり、まだ考えていない児童は8.3%(前回4.4%)、進学を希望していない児童は5.8%(前回6.6%)となっている。進学を希望する児童において、男子に比べて女子が1.9ポイント大きい結果となっている。

表39 児童養護施設の年長児童の高等学校(各種学校)進学希望

	実数	希望する	考えていない	希望しない
中学3年生	2,402	84.5%	8.3%	5.8%
男	1,247	83.6%	8.8%	6.2%
女	1,151	85.5%	7.7%	5.5%

注) 総数には性別不詳を含む。

5 大学(短大)進学希望

中学3年生以上の年長児童全員の大学又は短期大学への進学希望は、表40のとおりである。

調査の時点で大学(短大)進学希望者の割合は25.7%(前回21.4%)、考えていない28.1%(前回26.0%)、希望しない40.7%(前回46.5%)となっており、前回調査より進学希望が増加している。性別では、高等学校(各種学校)同様、女子の方が男子に比べ進学の希望が高い。

表40 児童養護施設の年長児童の大学(短大)進学希望

	実数	希望する	考えていない	希望しない
総数	7,265	25.7%	28.1%	40.7%
男	3,757	22.1%	29.5%	42.6%
女	3,480	29.5%	26.6%	38.9%
中3	2,402	26.5%	36.7%	33.5%
高1	1,729	26.8%	28.1%	39.8%
高2	1,505	26.2%	21.2%	46.4%
高3・4	1,358	23.6%	20.7%	47.3%
専・職	79	16.5%	26.6%	49.4%
その他	161	19.3%	29.2%	44.1%

注) 総数には性別不詳・学年不詳を含む。

6 将来の希望（1）－職業－

将来やりたい職業について、「会社や役所に勤める」、「工場に勤める」、「商店・デパート等に勤める」、「農業・漁業・林業・酪農など」、「学校の先生や保育士・看護師など」、「自動車・電車などの運転手及び船乗り・パイロットなど」、「美容師・理容師」、「スポーツ・芸能・芸術」、「警察・消防・自衛官」、「大工・建設業」、「新聞記者・アナウンサー」、「医者・弁護士」などの項目の中から1つを選択した結果が、次の表41である。

男子では、「スポーツ・芸能・芸術」12.1%（前回11.7%）、「工場に勤める」11.8%（前回8.2%）、「飲食業・調理等」8.0%（前回7.5%）が上位を占めている。

女子では、「学校の先生や保育士・看護師など」20.9%（前回21.6%）、「飲食業・調理等」9.3%（前回7.3%）「スポーツ・芸能・芸術」8.4%（前回7.2%）が上位を占めている。

表41 児童養護施設の年長児童の将来の希望（職業）

	実数	会社や 役所に 勤める	工場に 勤める	商店・デ パートに 勤める	農業 漁業 林業 酪農 等	先生 保育士 看護師 等	運転手 船乗り パイ ロット 等	美容師 理容師	飲食業 調理等	スポ ーツ 芸 能 ・ 芸 術	警察 ・ 消 防 ・ 自 衛 官	大工 ・ 建 築 業	新聞記 者 ・ ア ナ ウ ン サー	医者 ・ 弁 護 士	その他	未決
総数	7,265	4.9%	7.1%	4.0%	1.7%	12.6%	2.3%	4.4%	8.6%	10.3%	1.9%	4.1%	0.2%	0.9%	14.7%	20.0%
中3	2,402	4.2%	4.4%	3.5%	2.4%	11.9%	2.6%	4.7%	8.7%	13.2%	1.5%	4.7%	0.2%	1.0%	14.8%	20.4%
高1	1,729	4.7%	5.7%	4.1%	1.3%	13.0%	2.4%	3.6%	8.9%	10.1%	1.8%	4.1%	0.4%	1.1%	12.8%	24.1%
高2	1,505	5.3%	7.6%	5.4%	1.3%	13.0%	1.5%	4.7%	7.6%	8.5%	2.3%	3.3%	0.2%	0.6%	14.0%	21.9%
高3・4	1,358	6.0%	13.0%	3.8%	1.3%	13.2%	2.5%	4.8%	9.4%	8.5%	2.6%	2.9%	0.2%	0.8%	16.7%	11.8%
専・職	79	5.1%	12.7%	3.8%	1.3%	11.4%	3.8%	2.5%	7.6%	1.3%	2.5%	16.5%	1.3%	-	16.5%	11.4%
その他	161	1.2%	3.7%	0.6%	3.7%	11.2%	1.9%	4.3%	7.5%	8.1%	1.2%	6.8%	-	-	21.1%	26.7%
男	3,757	5.7%	11.8%	2.6%	2.4%	4.8%	4.1%	2.2%	8.0%	12.1%	3.2%	7.5%	0.2%	0.8%	11.0%	21.2%
中3	1,247	5.3%	7.8%	2.6%	3.5%	3.6%	4.8%	1.8%	8.2%	16.8%	2.4%	8.6%	0.2%	1.1%	10.5%	20.9%
高1	933	5.6%	10.1%	2.4%	1.8%	4.3%	4.4%	1.7%	8.5%	10.7%	2.6%	7.3%	0.3%	1.0%	10.3%	26.7%
高2	740	5.4%	12.8%	3.9%	1.5%	6.2%	2.6%	2.4%	6.6%	8.8%	4.3%	6.1%	0.1%	0.7%	11.5%	24.5%
高3・4	710	7.5%	20.3%	1.7%	2.1%	5.6%	4.5%	3.1%	8.6%	10.1%	4.5%	5.5%	0.3%	0.4%	11.1%	12.1%
専・職	51	3.9%	17.6%	-	-	5.9%	3.9%	3.9%	7.8%	2.0%	3.9%	23.5%	2.0%	-	15.7%	9.8%
その他	63	1.6%	4.8%	1.6%	6.3%	7.9%	1.6%	3.2%	7.9%	6.3%	-	15.9%	-	-	20.6%	19.0%
女	3,480	3.9%	2.0%	5.5%	0.9%	20.9%	0.3%	6.8%	9.3%	8.4%	0.6%	0.5%	0.3%	0.9%	18.8%	18.8%
中3	1,151	3.1%	0.8%	4.3%	1.1%	20.7%	0.3%	7.9%	9.3%	9.2%	0.5%	0.4%	0.2%	1.0%	19.5%	19.9%
高1	791	3.8%	0.6%	6.2%	0.5%	23.0%	0.1%	5.8%	9.5%	9.1%	0.9%	0.4%	0.5%	1.3%	15.8%	21.2%
高2	758	5.0%	2.6%	6.7%	1.1%	19.7%	0.4%	6.9%	8.6%	8.3%	0.4%	0.7%	0.3%	0.5%	16.6%	19.5%
高3・4	646	4.2%	5.1%	6.0%	0.5%	21.5%	0.3%	6.5%	10.4%	6.7%	0.5%	0.2%	0.2%	1.2%	22.9%	11.5%
専・職	28	7.1%	3.6%	10.7%	3.6%	21.4%	3.6%	-	7.1%	-	-	3.6%	-	-	17.9%	14.3%
その他	98	1.0%	3.1%	-	2.0%	13.3%	2.0%	5.1%	7.1%	9.2%	2.0%	1.0%	-	-	21.4%	31.6%

注) 総数には性別不詳・学年不詳を含む。

7 将来の希望（2）－家庭復帰、結婚、自立－

もとの家庭への復帰希望、結婚への願望、施設から出て自活する自信の有無について聞いた結果が表 42 である。

早くもとの家庭へ復帰したい児童は、全体で 37.7%（前回 38.4%）であるが、14 歳では 45.2%、15 歳では 45.8%が希望しており、その後は年齢が高くなるとともに減少している。

早く結婚して落ち着いた家庭を作りたいと答えた児童は、42.0%（前回 37.9%）であり、年齢が高くなるとともに増加している。

施設を出て、自分で生活することに自信があると答えた児童は、31.3%（前回 31.5%）となっており、特に性別による差が大きく、男子が 36.7%（前回 37.7%）に対して、女子は 25.6%（前回 25.0%）となっている。

「家庭復帰希望」「自立生活への自信」の項目に関しては、平成 4 年の調査以来減少の傾向を示している。

（「家庭復帰希望」：47.0%→41.9%→38.4%→37.7%）

（「自立生活への自信」：36.6%→33.5%→31.5%→31.3%）

※ [H4.12 調査 → H10.2 調査 → H15.2 調査 → H20.2 調査]

表 4 2 児童養護施設の年長児童の将来の希望（家庭復帰、結婚、自立）

	実数	家庭復帰	結婚したい	生活していく自信
総数	7,265	37.7%	42.0%	31.3%
男	3,757	36.5%	41.3%	36.7%
女	3,480	39.2%	42.7%	25.6%
14歳	199	45.2%	34.7%	28.6%
15歳	2,289	45.8%	38.8%	32.4%
16歳	1,731	37.1%	40.4%	29.6%
17歳	1,544	32.9%	44.3%	31.5%
18歳以上	1,254	28.2%	48.7%	31.3%

注) 総数には性別不詳、年齢不詳を含む。

8 友人関係

友人関係であるが、「親身になってくれるともだちがいますか」という質問に対して、「いる」という回答をした年長児童は 63.1%（前回 57.9%）、「いない」は 7.3%（前回 7.3%）、「わからない」は 27.5%（前回 27.4%）であった。

表 4 3 児童養護施設の年長児童の友人関係

	実数	いる	いない	わからない	不詳
総数	7,265	63.1%	7.3%	27.5%	2.1%
男	3,757	58.3%	8.5%	30.8%	2.3%
女	3,480	68.4%	5.9%	24.0%	1.7%
14歳	199	52.3%	7.5%	37.7%	2.5%
15歳	2,289	61.6%	7.1%	29.4%	1.9%
16歳	1,731	60.4%	7.5%	29.8%	2.3%
17歳	1,544	66.5%	7.4%	24.5%	1.6%
18歳以上	1,254	67.8%	7.4%	23.1%	1.7%

注) 総数には性別不詳、年齢不詳を含む。

Ⅶ 児童自立支援施設の年長児童の状況

1 年長児童の就学状況

今回の調査に回答を寄せてきた年長児童数は、1,019人であった。その内男子は629人(61.7%)、女子は387人(38.0%)、性別不詳が3人(0.3%)となっている。

また、児童自立支援施設入所児童の就学状況別の年長児童数は、表44のとおりである。

表44 児童自立支援施設の年長児童の就学状況

	総数	中3	中学卒	高1	高2	高3	高4	通信制	高校卒	専修学	公職訓	その他	不詳
総数	1,019 100.0%	739 72.5%	146 14.3%	51 5.0%	31 3.0%	20 2.0%	-	8 0.8%	2 0.2%	1 0.1%	6 0.6%	13 1.3%	2 0.2%
男	629 61.7% [100.0]	468 [74.4%]	73 [11.6%]	37 [5.9%]	19 [3.0%]	13 [2.1%]	-	4 [0.6%]	-	-	5 [0.8%]	9 [1.4%]	1 [0.2%]
女	387 38.0% [100.0]	270 [69.8%]	72 [18.6%]	14 [3.6%]	12 [3.1%]	7 [1.8%]	-	4 [1.0%]	2 [0.5%]	1 [0.3%]	1 [0.3%]	4 [1.0%]	-

注) 総数には、性別不詳を含む。

総数欄の%つきの数字は、就学状況の構成割合。[]内の数字は、就学状況別構成割合。

2 児童の生活行動経験

思いやりの行動や社会的自立に関わる行動として、児童養護施設と同様の項目で、それぞれについての経験の有無を聞いた。(質問項目については、参考を参照)

全項目中で最も多く経験しているのは「ク. 自分の気に入った洋服や持ち物を選んで買ったこと」の92.0%で、ほとんどの児童が経験しており、逆に少ないのは「キ. 一人で銀行や役所(区役所・市役所・町役場等)などで、手続きをしたこと」で21.3%の児童しか経験がない。

男女間で差の大きな項目は、「オ. 赤ちゃんをあやしたり、おむつの世話をしたこと」であり、女子が男子に比べて25.5ポイント大きくなっている。

「いじめ」に関しては、「コ. 大勢で1人をいじめてしまったこと」が44.6%(前回49.6%)、「サ. いじめを受けていたこと」が43.2%(前回40.1%)であり、いずれの項目についても、女子の比率が高いという結果になっている。

また、「虐待」に関しては、「シ. 虐待を受けたこと」が全体の31.2%(前回27.7%)であり、女子が男子より16.6ポイント高い結果となっている。

表45 児童自立支援施設の年長児童の経験状況

	実数	ア. ネコの世話	イ. 人を助ける	ウ. やりとあげる	エ. 旅行	オ. 赤ちゃん	カ. ボランティア	キ. 手続き	ク. 買う	ケ. アルバイト	コ. 大勢でいじめた	サ. いじめを受けていた	シ. 虐待を受けた
総数	1,019	79.0%	74.1%	78.0%	31.8%	56.6%	61.6%	21.3%	92.0%	27.8%	44.6%	43.2%	31.2%
男	629	78.2%	72.0%	80.3%	28.5%	46.9%	60.6%	17.2%	90.9%	22.6%	40.1%	35.3%	25.0%
女	387	80.6%	77.5%	74.4%	37.5%	72.4%	63.6%	27.9%	93.8%	36.2%	51.9%	56.1%	41.6%
中3	739	80.8%	72.0%	77.9%	34.2%	55.6%	59.1%	17.2%	93.5%	21.1%	47.4%	39.9%	26.1%
中学卒業	146	76.7%	81.5%	76.7%	28.1%	59.6%	67.8%	24.0%	87.0%	43.8%	41.1%	56.2%	38.4%
高校生等	132	72.7%	78.0%	81.1%	22.7%	59.8%	69.7%	40.9%	90.2%	47.0%	33.3%	47.0%	52.3%

注) 総数には、性別不詳・学年不詳を含む。

(参考) 表45の全質問項目一覧表

- 「ア. 犬、ネコなどや家畜などの世話をしたこと」
- 「イ. 困っている人を助けてあげたこと」
- 「ウ. 自分で決めた事(スポーツや勉強など)をやりとげ、よくやったなとうれしく思うこと」
- 「エ. 自分や友人たちと計画して、旅行したこと」
- 「オ. 赤ちゃんをあやしたり、おむつの世話をしたこと」
- 「カ. ボランティアをしたこと」
- 「キ. 一人で銀行や役所(区役所・市役所・町役場等)などで、手続きをしたこと」
- 「ク. 自分の気に入った洋服や持ち物を選んで買ったこと」
- 「ケ. アルバイトやパートタイムの仕事をしたこと」
- 「コ. 大勢で1人をいじめてしまったこと」
- 「サ. いじめを受けていたこと」
- 「シ. 虐待を受けたこと」

3 大切なこと

児童養護施設と同様に、大切なことと思うものについて回答してもらった(質問項目については参考を参照)。

最も選択率の高かったものは、「2. 家族で仲良く生活すること」の60.3%(前回60.3%)で、次いで「4. 友達がたくさんいること」の50.9%(前回49.3%)、「5. 健康であること」の45.1%(前回44.6%)となっている。

逆に、最も選択率の低かったものは、「1. 勉強ができること」の7.3%(前回6.8%)で、次いで「8. 人のいやがる事をすすんでやること」の9.2%(前回9.5%)、「3. お金がたくさんあること」の20.3%(前回22.6%)となっている。

男女間で差の大きい項目は、「4. 友達がたくさんいること」で男子が女子より8.5ポイント高いのに対し、「3. お金がたくさんあること」では女子が10.7ポイント、「9. 勇気を持っていること」では女子が9.1ポイント男子より高くなっている。

表46 児童自立支援施設の年長児童の大切なこと(3つ選択)

	実数	1. 勉強	2. 家族	3. お金	4. 友達	5. 健康	6. 特技	7. 夢	8. すすんで やる	9. 勇気	10. 仕事
総数	1,019	7.3%	60.3%	20.3%	50.9%	45.1%	20.9%	37.9%	9.2%	21.3%	22.4%
男	629	7.6%	61.2%	16.2%	54.2%	44.8%	22.9%	37.5%	9.2%	17.8%	23.8%
女	387	6.7%	58.9%	26.9%	45.7%	45.7%	17.8%	38.8%	9.3%	26.9%	19.9%
中3	739	8.3%	61.8%	20.0%	52.1%	44.8%	21.2%	37.6%	8.3%	20.7%	21.1%
中学卒業	146	4.1%	62.3%	17.8%	41.8%	43.2%	19.9%	41.1%	15.1%	23.3%	28.8%
高校生等	132	5.3%	50.0%	25.0%	55.3%	50.0%	20.5%	36.4%	8.3%	22.0%	22.7%

注) 総数には、性別不詳・学年不詳を含む。

(参考) 表46の質問項目一覧

- 「1. 勉強ができること」
- 「2. 家族で仲良く生活すること」
- 「3. お金がたくさんあること」
- 「4. 友達がたくさんいること」
- 「5. 健康であること」
- 「6. 運動や歌などで、何か得意なもの(特技)があること」
- 「7. 将来に夢を持っていること」
- 「8. 人のいやがる事をすすんでやること」
- 「9. 勇気を持っていること」
- 「10. 安定した仕事をする事」

4 高等学校(各種学校)進学希望

児童自立支援施設入所児童のうち、中学3年生の高等学校または各種学校への進学希望は、表47のとおりである。

調査の時点で進学を希望する児童の割合は77.4%(前回68.0%)、まだ考えていない児童7.2%(前回7.5%)、進学を希望していない児童は14.9%(前回23.4%)となっており、前回調査に比べ進学希望が大幅に増加している。

性別では、女子の方が、男子に比べ進学希望が5.9ポイント高い。

表47 児童自立支援施設の年長児童の高等学校(各種学校)進学希望

	実数	希望する	考えていない	希望しない	不詳
中学3年生	739	77.4%	7.2%	14.9%	0.5%
男	468	75.2%	7.5%	16.5%	0.9%
女	270	81.1%	6.7%	12.2%	-

注) 総数には、性別不詳を含む。

5 大学(短大)進学希望

中3以上の年長児童全員の大学または短期大学への進学希望は、表48のとおりである。

大学(短大)進学希望者の割合は23.5%(前回12.4%)、考えていない33.1%(前回31.7%)、希望しない41.5%(前回52.6%)となっており、前回調査より進学希望が増加している。性別では高等学校(各種学校)同様、女子の方が男子に比べ進学希望が7.1ポイント高い。

表48 児童自立支援施設の年長児童の大学(短大)進学希望

	実数	希望する	考えていない	希望しない	不詳
総数	1,019	23.5%	33.1%	41.5%	2.0%
男	629	20.8%	33.4%	43.6%	2.2%
女	387	27.9%	32.3%	38.5%	1.3%
中3	739	22.6%	34.6%	41.3%	1.5%
中学卒業	146	19.9%	37.7%	41.1%	1.4%
高校生等	132	32.6%	18.9%	43.9%	4.5%

注) 総数には、性別不詳・学年不詳を含む。

6 将来の希望 (1) -職業-

児童養護施設と同様に、将来やりたい職業について選択した結果が表 49 である。

男子では、「大工・建設業」19.6% (前回 27.5%)、「スポーツ・芸能・芸術」8.9% (前回 8.9%)、「飲食業」8.3% (前回 8.0%) などが上位を占めている。女子では、「学校の先生や保育士・看護師など」17.1% (前回 16.9%)、「美容師・理容師」10.3% (前回 14.4%)、「飲食業・調理等」8.0% (前回 9.9%) が上位を占めている。

女子の希望で男子と異なる特徴は、「美容師・理容師」、「学校の先生や保育士・看護師など」、「商店・デパート等に勤める」の割合が高くなっており、「大工・建設業」、「運転手・パイロット等」、「工場に勤める」の割合が低くなっている。

表 49 児童自立支援施設の年長児童の将来の希望 (職業)

	実数	会社や役所に勤める	工場に勤める	商店・デパートに勤める	農業 漁業 林業 酪農等	先生 保育士 看護師等	運転手 船乗り パイロット等	美容師 理容師	飲食業 調理等	スポーツ・ 芸能・ 芸術	警察・ 消防・ 自衛官	大工・ 建築業	新聞記者・ アナウンサー	医者・ 弁護士	その他	未決
総数	1,019	2.6%	3.4%	3.5%	2.9%	9.4%	3.5%	6.0%	8.2%	7.9%	1.5%	12.4%	0.1%	1.3%	19.0%	16.6%
中3	739	2.3%	3.8%	3.0%	2.4%	9.7%	4.1%	6.5%	7.7%	8.0%	1.5%	14.3%	0.1%	1.4%	16.9%	17.2%
中学卒業	146	3.4%	1.4%	5.5%	5.5%	8.2%	1.4%	6.2%	11.6%	8.2%	-	6.8%	-	-	23.3%	16.4%
高校生等	132	3.8%	3.8%	4.5%	3.0%	9.1%	3.0%	3.0%	7.6%	6.8%	3.0%	7.6%	-	2.3%	26.5%	12.9%
男	629	2.5%	5.1%	2.1%	4.0%	4.8%	5.6%	3.2%	8.3%	8.9%	2.2%	19.6%	-	1.1%	13.8%	17.5%
中3	468	1.9%	5.6%	1.7%	3.0%	5.8%	6.2%	3.4%	7.5%	9.4%	2.1%	22.0%	-	0.9%	12.2%	17.5%
中学卒業	73	4.1%	1.4%	2.7%	9.6%	1.4%	2.7%	5.5%	12.3%	9.6%	-	13.7%	-	-	13.7%	20.5%
高校生等	87	4.6%	5.7%	3.4%	4.6%	2.3%	4.6%	-	9.2%	5.7%	4.6%	11.5%	-	3.4%	23.0%	13.8%
女	387	2.8%	0.8%	5.9%	1.3%	17.1%	0.3%	10.3%	8.0%	6.2%	0.3%	0.8%	0.3%	1.6%	27.6%	15.2%
中3	270	3.0%	0.7%	5.2%	1.5%	16.7%	0.4%	11.5%	8.1%	5.6%	0.4%	1.1%	0.4%	2.2%	25.2%	16.7%
中学卒業	72	2.8%	1.4%	8.3%	1.4%	15.3%	-	6.9%	9.7%	6.9%	-	-	-	-	33.3%	12.5%
高校生等	45	2.2%	-	6.7%	-	22.2%	-	8.9%	4.4%	8.9%	-	-	-	-	33.3%	11.1%

注) 総数には、性別不詳・学年不詳を含む。

7 将来の希望 (2) -家庭復帰、結婚、自立-

もとの家庭への復帰希望、結婚への願望、施設から出て自活する自信の有無について聞いた結果が表 50 である。

早くもとの家庭へ復帰したい児童は 74.7% (前回 78.0%)、早く結婚して落ち着いた家庭を作りたいと答えた児童は 54.1% (前回 52.2%)、施設を出て、自分で生活することに自信があると答えた児童は 51.9% (前回 58.3%) となっている。

表 50 児童自立支援施設の年長児童の将来の希望 (家庭復帰、結婚、自立)

	実数	家庭復帰	結婚したい	生活していく自信
総数	1,019	74.7%	54.1%	51.9%
男	629	76.3%	52.0%	53.6%
女	387	72.4%	57.9%	49.1%
14歳	74	86.5%	58.1%	50.0%
15歳	623	81.5%	55.4%	53.9%
16歳	158	61.4%	48.1%	50.6%
17歳	69	46.4%	49.3%	36.2%
18歳以上	32	28.1%	53.1%	53.1%

注) 総数には性別不詳、年齢不詳を含む。

8 友人関係

友人関係について、「親身になってくれるともだちがいますか」という質問に対して、「いる」という回答をした年長児童は60.8%（前回57.2%）、「いない」は10.9%（前回11.1%）、「わからない」は27.4%（前回28.3%）であった。

表5 1 児童自立支援施設の年長児童の友人関係

	実数	いる	いない	わからない	不詳
総数	1,019	60.8%	10.9%	27.4%	0.9%
男	629	58.8%	11.0%	29.6%	0.6%
女	387	64.3%	10.9%	23.8%	1.0%
14歳	74	59.5%	10.8%	29.7%	-
15歳	623	61.2%	10.3%	27.8%	0.8%
16歳	158	58.9%	12.0%	27.8%	1.3%
17歳	69	52.2%	17.4%	29.0%	1.4%
18歳以上	32	75.0%	12.5%	12.5%	-

注) 総数には性別不詳、年齢不詳を含む。